

善隣

No.524 通巻791

2022年（令和4年）5月1日発行（毎月1日発行）

2022

5



一般社団法人 国際善隣協会

善 隣 目 次 2022年 5 月号

日中関係を破壊し日本を滅ぼす新・暴支膺懲決議 ——衆愚議員たちは中国非難決議の帰結を予見できないのか	矢吹 晋 2
今こそ人類人主義を！ ——国際主義を超えて、エスペラントの内在思想を深めたい ソ連侵攻と敗戦で生まれた残留婦人と孤児たち	大類善啓 12
人権侵害・憲法違反の入管	渡邊澄子 21
陶々俳壇	馬場由紀子選 31
中国ウォッチング	編・訳 上松玲子 32
協会通信・会員だより・同好会だより	34
2022年 5 月の行事予定	35

みんなの写真館	34
---------------	----

(田畑光永、新宅久夫)

善 隣 第524号 通巻791号

2022 (令和 4) 年 5 月 1 日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋 1-5-5
一般社団法人 国際善隣協会
TEL 03 (3573) 3051
FAX 03 (3573) 1783

発行人 矢野一彌
編 集 原田克子
編集協力 朝 浩之、校 正 菅沼玲子
印刷所 (有)ゆにおんプレス
定価 一部400円 年額4,800円
振替 00120-0-145956
国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345
©禁無断転載

当協会は、中国ならびに近隣諸国
との相互理解を深め、友好親善・交
流を推進しています。

一般社団法人 国際善隣協会

日中関係を破壊し日本を滅ぼす新・暴支膺懲決議

——衆愚議員たちは中国非難決議の帰結を予見できないのか

矢吹 晋（会員）

2022年2月1日、第208回国会は、空前の愚劣な〈決議第1号〉を超党派の「多数」で可決した。衆院ホームページによると、審議時賛成会派は、「自由民主党、立憲民主党・無所属、日本維新の会、公明党、国民民主党・無所属クラブ、日本共産党、有志の会」であり、審議時反対会派は「れいわ新選組」のみだ。しかしながら「れいわ新選組」の反対理由は、決議の主題自体への反対ではない。それゆえこの零細政党を含めて、衆議院のすべての会派が新・〈暴支膺懲〉決議に賛成した。本会議に出席しながら「棄権することによって反対の態度を示した議員」がどれほどか、また「本会議への欠席によって事実上反対の意志を示した議員」がどれほどか、公表されていない。

ズバリいえば、衆院議員には自らの信条を表明する自由さえ欠如しているように見える。これを〈令和ファシズム〉大政翼賛会と称さずして、何と呼ぶべきか。これは〈新・暴支膺懲〉決議であり、日中戦争時の近衛声明21世紀版と評して過言ではない。半世紀前の1972年田中訪中によって、辛うじて成った日中共同声明は、今や反故同然であり、この声明によって行われた日中戦争の敗戦処理は行方不明になった。終戦処理が反故にされた事実の論理的帰結は、何か。20世紀後半の日中戦争が21世紀の今日も継続している、という重大な帰結にならざるを得ない。共同声明の核心は、日華平和条約を〈名存実亡〉としたことであり、それは尖閣問

題を棚上げすることによって成った。〈台湾有事〉によって日華条約を甦らせ、尖閣国有化によって棚上げを否定することは、日中共同声明を反故にすることだ。念のために見ておくと、決議のタイトルは「新疆ウイグル等における深刻な人権状況に対する決議」で、全文は以下の通りだ。

近年、国際社会から、新疆ウイグル、チベット、南モンゴル、香港等における、宗教の自由への侵害や、強制収監をはじめとする深刻な人権状況への懸念が示されている。人権問題は、人権が普遍的価値を有し、国際社会の正当な関心事項であることから、一国の内政問題にとどまるものではない。この事態に対し、一方

的に民主主義を否定されるなど、弾圧を受けていると訴える人々からは、国際社会に支援を求める多くの声が上がっており、また、その支援を打ち出す法律を制定する国も出てくるなど、国際社会においてもこれに応えようとする動きが広がっている。そして、日米首脳会談、G7等においても、人権状況への深刻な懸念が共有されたところである。このような状況において、人権の尊重を掲げる我が国も、日本の人権外交を導く実質的かつ強固な政治レベルの文書を採択し、確固たる立場からの建設的なコミットメントが求められている。本院は、深刻な人権状況に象徴される力による現状の変更を国際社会に対する脅威と認識するとともに、深刻な人権状況について、国際社会が納得するような形で説明責任を果たすよう、強く求める。政府においても、このような認識の下に、それぞれの民族等の文化・伝統・自治を尊重しつつ、自由・民主主義・法の支配といった基本的価値観を踏まえ、まず、この深刻な人権状況の全容を把握するため、事実関係に関する情報収集を行うべきである。それとともに、国際社会と連携して深刻な人権状況を監視し、救済するための包括的な施策を実施すべきである。右決議する。

決議の主題は「新疆ウイグル、チベット、南モンゴル、香港等」の「深刻な人権状況」とされているが、ここで列挙された諸地域がすべて中華人民共和国の一部であることは明らかだ。「香港等」の「等」に何を含まかは明らかではないが、原案の起草者が台湾と書き込み、「台湾有事」はさすがに挑発的と議員間で議論があり、「香港等」とばかされたものか。原案の「深刻な人権侵害」を「深刻な人権状況」と変え、中国の2文字を削除したところで、中国非難決議という内政干渉を、田中訪中半世紀後の衆議院が決議した事実に変わりはない。

逆立ち全体主義としての〈令和ファシズム〉

浜野研三という未知の哲学者（関西学院大学教授）から『「ただ人間であること」が持つ道徳的価値』（春風社、2019年）という新刊書の寄贈を受けたのは、3年前だ。教授は「尖閣国有化」以後の日本の政治を「逆立ち全体主義」の一例として、矢吹の一連の尖閣論に触れて、次のように論じている。長いが引用しよう。

中国ウォッチャーとして名高い矢吹晋による著作を見ると、日本のマスメディアが取り上げていない様々な事実が資料を挙げて説明されている。それによると、日本政府の現在の立場は、事実と異なる前提に立ったものであり極めて危険な立場である。彼が挙げている事実をいくつか挙げてみる。たとえば、まず、地理的には尖閣列島は台湾の附属島嶼にあたり、琉球王国の領土ではなかった。そして、何よりもアメリカが尖閣列島に関する日本の領有権を認めていない。矢吹によると、沖縄返還の際、アメリカは尖閣列島の日本への返還を強く批判する蒋介石の動きに対して、領有権と施政権を区別して、日本に対して施政権のみを認め、領有権に関しては、中立の立場を保つという立場をとったのである。しかし、その事実、当時の佐藤内閣によって国民に知らされることはなく、そのような事実は今も隠蔽されている。さらに日中国交正常化時に田中角栄・周恩来会談で、尖閣列島の帰属問題に関する棚上げの合意が存在し、その後の園田直・鄧小平会談においてその再確認がなされている。これに加えて、国際法上日本の主張は正しいという意見もあるが、頼みのアメリカが中立を保ち、軍事的な援助に及び腰で

ある状況で、核を持つ軍事大国である中国と事を構えることが本当に出来るのか。また、それは真に日本が取るべき道なのかは、今一度真剣に問い直されねばならない。このような事実を踏まえると、尖閣列島問題については、もっと慎重な検討と対応が要求されることが分かる。日本政府のように、領土問題は存在しない、の一点張りでは、事態が陰悪になるだけである。以上のような矢吹の指摘は当然幅広く報道され、その是非や、それを踏まえていかに振る舞うべきかについての議論がマスメディアを通じてなされるべきであると思われるが、残念ながらそのようなことは起こっていない。矢吹の本を読んだ人しか以上のような理解の存在を知らず、ただ領土拡張欲求・資源獲得欲求による中国の理不尽な振る舞いと捉えるだけの理解が広く受け入れられている。……企業国家——逆転型全体主義監視社会化の進展の中で、企業国家による強大な権力の行使による全体主義的な統治形態への動きは、いよいよその速度を速めているように見える。この問題を考えるとき、メディアの寡頭支配、政治資金の規制の緩和（悪名高い連邦最高裁 *Citizen United vs. Federal Election Committee* 判決がよい例である）等で

日本より全体主義化の度合いが高い、その意味で進んでいるアメリカの形態について、シェルドン・ウォーリン (Sheldon Wolin) が興味深い議論を行っており、参考になる。ウォーリンは、現在の全体主義は、ナチに代表されるようなものと逆のベクトルで形成されるとして、逆転型全体主義 (inverted totalitarianism) と名付けている。「限りのない権力と戦闘的な拡張政策という点ではナチも現在の米国も変わりはないが、ワイマール体制においては、全体主義の担い手は街路を支配していた無法者たちであり、民主主義は政府に限られていたのに対し、現在のアメリカでは民主主義は街路でこそ生き生きとしているのに対し、全体主義への危険はますます抑制が効かなくなっている政府に存している」。また、「ナチの支配の下では、大企業は政治体制に服従していたが、アメリカでは企業権力は政治的な権力者集団、特に共和党の中で極めて支配的であり、ナチの場合とまったく逆の、役割の逆転が示唆されている。そして、科学と技術の資本主義的構造への統合によって利用可能となった、拡大を続ける力と資本主義の力の代表者としての企業権力こそが全体主義化する動因を生み出しているのに対して、ナチにお

いては、生命圏などのようなイデオロギー的な概念がそのような動因を提供していた」。(浜野研三著、204頁〜208頁)

浜野の新著を通じて、9・11以後の米国社会を「逆転型全体主義」あるいは「逆立ちした全体主義」と呼ぶ有名な政治学者、プリンストン大学の名誉教授ウォーリンの所説に接して、私は改めて日米の全体主義、そして〈令和ファシズム〉を再考した。私が尖閣問題について書いた本が〈非国民の著書扱い〉され、「国益に反するから焼くべきだ」とまで発言したキャリア官僚の声を仄聞して、日本社会がここまで墮落したかと密かに危惧していたが、私とほとんど同じような印象で私の尖閣に関わる発言を受け止めていた日本知識人の存在を知り、我が意を得た次第である。しかも、浜野が尖閣報道に違和感を抱いたのは、米国社会について「逆転型全体主義」と名付けて、その特徴を分析した、政治学者ウォーリンの所説にあてはまる例として、尖閣報道を挙げたという理論的背景がより重要だ。ウォーリンは、①全体主義の担い手は誰か、無法者か、政府か、②全体主義の推進者は誰か、企業か、それとも政府か、③人々を煽動する手段はイデオロギーか、

それとも科学技術か。これら3か条について、ナチスの経験と現代アメリカのナショナリズムを比較対照して、ナチス流の全体主義とは対照的な構造をもつアメリカ流の全体主義を「逆立ち全体主義」と名付けたわけだ。さて独米、2つの全体主義と比べて、安倍晋三流の日本「逆立ち全体主義」には、どのような特徴が見られるであろうか。

まず担い手はナチスの利用した「無法者」にも似た、ネトウヨであり、これに資金提供を行っているのが日本政府だ。それゆえ、独米、両者の要素をもつ。ナチス統治下で企業は資本主義的に見て「合理主義的行動」をとったのに対して、米国企業は企業側が政治資金を活用して政府権力を握り、行使する。ナチスとは対照的に、独占的な巨大企業に対して「政府はより民主的、全国民の利益擁護」を掲げている。日本型全体主義は、政府の誘導に企業経営者が従う構図であらう。最後に全体主義への動因だが、ナチスが特有のイデオロギーに指導されたのに対して、現代アメリカでは科技の急発展がテクノ・ファシズムを誘導している。日本はここでも右翼イデオロギーと科技の2つが両々相まって逆立ち全体主義を牽引しているように見える（たとえば全国

民のクレカ総点数数化はその一例）。

尖閣国有化騒動以後の日中対立および日本帝国主義の戦前の徴用工問題をめぐってエスカレートしつつある日韓衝突を見ると、日本型逆立ち全体主義は、近隣諸国による帝国主義批判行動への反発を解決するのではなく、むしろこれを政府が煽る構造によって、自国政治体制の強化が図られていることに気づく。とりわけ、国政選挙の前夜、敵愾心を煽るナショナリズム高揚作戦は誰の目にも明らかだ。現代におけるナショナリズムの作用と反作用とは、ニワトリとタマゴの関係なので、いずれか一方を攻めるのは妥当ではない。対立が1度始まると、相互の応酬は相手に対する不信感を増幅しつつ、悪循環はとまらない（矢吹晋著『中国の時代』の越え方』白水社、2020年、266〜271頁）。こうして石原慎太郎都知事（当時）の挑発に始まる尖閣国有化騒動が10年後の今日、台湾有事論に発展し、田中訪中による日中共同声明を反故にするところまで、坂道を転げるように悪化し、ついに新暴支膺懲決議に至った。

政策 電脳社会主義を導くビッグデータ

さて、新暴支膺懲と日本の議員たちがいきり立つ中国の実情を一瞥しよう。そこでは電脳社会主義への歩みが急ピッチだ。2017年にサイバー安全法を作り、2020年9月にグローバル安全イニシアティブを発表した。王毅（国務委員兼外相）によれば、「他国の重要インフラを破壊し、重要データの窃取に反対する」ように呼びかけたものだ。2021年11月には個人情報保護法を施行した。中国流の個人情報保護論からは、欧州連合（EU）の一般データ保護規則（GDPR）の規定を大いに参照していることが読み取れる。2021年9月にはデータ安全法も公布した。こうして2017年6月に公布された①インターネット安全法および②データ安全法、③個人情報保護法により、データ規制の枠組みが整った。これらの法律は、海外へのデータ持ち出しを厳しく制限する点に特徴があるが、むろん折からの米中衝突がその背景にあることは、いうまでもない。2021年11月30日、中国当局は「ビッグデータ産業5か年計画」を発表し、工業情報化省が地方政府に通知した。これによると、2020年現在1兆元規模に育ったビッグデータ産業を、2025年までに年率25%の速度で発展させる目標を掲げている。

る。この新たなデータ5か年計画においても、外国の制裁の影響を受けないビッグデータ産業体系の構築を目標に盛り込んでいる。中国は米中覇権争いの核心の一つが「データ主権」にあることを熟知しており、一連の法整備を進めているが、国内的にはアリババ集団や Tencent のような中国 IT の有力企業への規制も強化している。これは共同富裕論を意識した課税強化策でもあるとともに、これらの企業のもつビッグデータの外国流出防止も視野に入れている。この文脈で注目されるのは、配車アプリの大手、滴滴出行（ディディ）に対するニューヨーク取引所の上場停止措置であろう。滴滴については、2021年7月末にも米紙 WSJ が「株式の非公開化」を検討中と報じたが、有力 IT 企業のニューヨーク上場停止は、IT 覇権争奪戦がより一歩進んだことを意味している。

人口百万当たりの G7 コロナ死者数を
中国と比較すると
(2021年12月1日現在)
(右欄は、中国を1とする倍数)

米 国	2363	738
イ タ リ ア	2215	692
英 国	2145	670
フ ラ ン ス	1842	576
ド イ ツ	1220	381
カ ナ ダ	789	247
世 界	670	209
日 本	145	45
中 国	3.2	1

資料 札幌医大ホームページ
人口あたりの新型コロナウイルス死者数の推移
【世界・国別】 (sapmed.ac.jp)

極度に少ないコロナ死者数が示す 電腦社会の合理性

一例を挙げよう。人口百万当たりのコロナ死者は、米国 2363 人、日本 14

5 人に對して、中国は 3・2 人にすぎない。米国、日本の死者は、それぞれ中国の 738 倍、45 倍だ（札幌医大コロナ統計 12 月 1 日現在）。

《中国電腦社会主義》の優位性は、コロナ対策に関するかぎり、一目瞭然ではないか。コロナ禍に直面して G7 諸国（旧植民地に支えられ、現在は移民労働者に支えられる帝国主義諸国）は、日本を含めて、異口同音に中国の《権威主義体制あるいは専制主義》を批判しつつ、G7 諸国こそが《人権を守り、民主主義に依拠しつつ、コロナ対策を進めている》と繰り返した。日本政府は《価値観を共

有する G7 諸国と共に歩む》と繰り返した。しかしながら、彼らの説く《人権》や《民主主義》は、コロナ死亡率とどう関わるのか。中国と比べて 2 桁も多い死者を数えている国に他国の人権状況や政治制度を批判する資格はあるのか。米国や英仏等旧帝国主義諸国でなぜ人口比死亡率が高いのか。最大の要因は、旧植民地から宗主国へ移民労働者として渡った人々の劣悪な、人権無視の生活条件である。彼らは罹患しても、病院に行き治療費を払うことができない。それどころか罹患のままで 3K 職場へ働きに行き、コロナウイルスを拡散している。米国の黒人等の非白人市民が治療費を払えない現実、即所得階級・経済格差の問題であり、福祉国家の矛盾をコロナ禍が暴露したと読むことができる。第 2 次世界大戦後、声高に語られてきた福利・福祉政策の恩恵は旧植民地から出稼ぎにやってきた《2 級市民》には届いていない。この現実をコロナウイルスが暴いた形ではないか。国民への福祉政策はなるほど存在している。問題はその政策のカバー範囲が白人社会に限られている現実だ。コロナウイルスは付度せず、その虚飾をはぎ取ったのだ。コロナ死亡率の著しい格差の意味するものを今こそ、事実

して再考すべきだ。中国で行われているゼロ・ウィルス作戦が妥当な戦略か否かについては、筆者は異なる見解をもつが、それはさておき、中国における対策の有効性は、単にコロナ対策にとどまらないはずだ。ウィルスの流行をオンタイムで把握して、必要な対策をオンタイムで行う試みに成功したことは、中国全社会のガバナンス（治理）において、ビッグデータの活用が正しく行われ始めたことを示唆する。これは単なる「上からの管理」ではない。それぞれの地域・職場の実態を当該地の人々が正しく認識して行動した総体としての成功、すなわち「ガバナンスの成功」だ。これを単なる監視社会、強権支配と矮小化すべきではない。人々がそれぞれの状況を的確に理解した上で生まれた、的確な情報に支えられた行動を根拠としており、電腦社会主義の一断面を鮮やかに示したものと筆者は解する。

コロナ対策の成功体験が中国社会全般に及ぶこと——これこそが電腦社会主義の全体像にほかならない。コロナ対策における中国の成功は、この効率的システムを全社会のあらゆる分野に応用する可能性を示唆しており、電腦社会主義の可能性は、コロナ対策を通じて大きく前進した点に筆者は着目している。

ビッグデータ市場が電腦社会主義を導く

資本主義経済はさまざまな商品を市場・取引所で取引するメカニズムからなっている。それらの商品は穀物や原油をはじめとして、各種各様の商品からなる。これらの商品の中には、商品情報も一部含まれるが、いわゆるビッグデータは含まれていない。2015年4月全国初のビッグデータ取引所たる「貴陽ビッグデータ取引所」が生まれ、武漢、ハルビン、江蘇、西安、広州、青島、上海、浙江、瀋陽、安徽、成都などに相次いで取引所が生まれた。2020年11月現在、取引所は20を超えて各地方政府や国家信息中心と協調して「重信数拠」、「九次方大数据拠」、「数海科技」、「中潤普達」などのビッグデータサービス企業にデータを供給している。ちなみに

に2021年11月、上海で開設された「上海数拠交易所（データ取引所）」には、第1陣として次の表のごとく20商品が上場された。

上場データを提供する企業は、新中国移动通信（China Mobile）、新中国联通（China Unicom）、新中国电信（China Telecom）の移动通信3社のほか、東方航空、遠洋海運、高德ソフト（ハイウェイおよび地図情報）、通販デリ

上場データ商品名	取引所商品番号	上場データの親会社
伯信商情	60002318	銀聯智策顧問(上海)有限公司
電商數聚	10009659	中国聯合網絡通信有限公司上海市分公司
億通智歸美	20001708	上海億通國際股份有限公司
海情數知	20001869	交通運輸部東海航海保障中心上海海圖中心
中遠海科船視宝	20001528	中遠海運科技股份有限公司
科創智數	30005906	上海新淨信知識產權服務股份有限公司
一財知城發展指數	90009501	上海第一財經傳媒有限公司
千尋知寸	90002601	千尋位置網絡有限公司
數庫產業鏈图谱	90003019	數庫(上海)科技有限公司
翼知時空	10002106	中國電信股份有限公司上海分公司
鏈鋼數	70002635	上海寶信軟件股份有限公司
企業電智繪	80000108	國網上海市電力公司
通聯數企企業綜評	60005196	上海通聯金融服務有限公司
航班資源宝	50009236	中國東方航空股份有限公司
高德路呈	50005806	高德軟件有限公司
久事客流宝	50006852	上海公共交通卡股份有限公司
A股量化因子	60001580	萬得信息技術股份有限公司
卡奧斯工業數擎	70002159	海爾數字科技(上海)有限公司
京東城市數鏡	90005209	上海京東智聯信息技術有限公司
中移洞察	10003689	中國移動通信集團上海有限公司

資料：首批挂牌數據產品

產品 - 上海數據交易所 (chinadep.com)

バリー各社の情報部門など現代社会から生まれ、それを導くさまざまなビッグデータを集める関連企業群である。これら企業の一部は、物流企業あるいは通信販売企業として本体業務の業績評価を問う市場にすでに上場されている企業もある。

しかしながら、今回、ビッグデータ自体を本体業務部門から切り離して上場することには、新たな意味があると見てよい。ビッグデータ自体は単なる数字の羅列に過ぎないが、データサイエンスの手法により加工することによって、複雑な人々の経済・社会行動を把握するための有力な指針をさまざまなレベルで与えることになる。たとえば売れ筋商品の情報が販売促進や新製品開発のために役立つことは言を俟たないし、人々の交通や物流の情報が快適な都市生活や安全性を支えることも容易に理解できよう。とりわけ今、話題のEVカーやコネクテドカーの自動運転を強力に支えることによって、その有用性が実証されよう。これらの情報が市場を通じて適正な価格付けが行われ、より有用な情報がより安価な価格で売買されることによって、人々がそれらの情報の選択肢をえられることは、何を意味するであろうか。ジョージ・オーウェルが『1984年』で戯画化した監視社

会がわれわれの先入観となつて久しいが、その暗黒未来社会とビッグデータを活用して成立する電脳社会は、似て非なることが明らかになりつつある。

最大の違いは、オーウェルの想定と異なり、ビッグデータを扱うのが「ビッグブラザー（スターリンの暗喩）」とは限らないことだ。さまざまな分野のビッグデータは、巧みなデータ処理により、有用なデータとすべく解析される。それらのデータ解析を担当するのは、やはりそれぞれの分野の専門家の分業と協業に依存せざるを得ない。これらの専門家が誰のためにどのような分析を行うのか。〈大多数の最大幸福のために〉といった目標あるいは理想がデータ解析の導きとならざるを得ない。ここからデータサイエンスティストたちの試行錯誤が始まる。〈ビッグブラザーによる大衆管理のためのデータ解析か〉、それとも〈最大多数の最大幸福を目指すデータ解析か〉、その選択はたえず問われることになり、そのたびに誰のために、何を解析するか、それが争点となる。その場合に、ビッグデータ取引所が軍配を下すことになる。すなわち、ビッグデータの扱いを決めるのは取引所であつて、単一のビッグブラザーではありえない。この文脈でビッグデ

ータを市場の取引に委ねるメカニズムは、〈超資本主義的経済システム〉である。このシステムは米国資本主義をはじめ、すべての先進資本主義諸国で未だ欠けている。中国がこのシステムの導入に踏み切ったことは、習近平指導部が「情報を含めてあらゆる商品の取引を市場メカニズムに委ねる」決意を固めたことを意味しており、そのような経済行動を踏まえた国家・社会を目指してスタートしたことを意味している。これはもはや、旧来の管理社会ではないし、いわんや監視社会ではない。電脳を駆使したガバナンス（社会統治）社会であり、まさに電脳社会の誕生を意味している。電脳社会主義の可能性は大きい。

ビッグデータ市場のイメージを描くには、取引所開設の意味を解説した田杰棠（国務院発展研究中心創新發展部副部長、研究員）の論文が参考になる。これはテラセント研究院とテラセント・クラウドが共編した『デジタル経済の道・ガソリン・車』シリーズに寄せた〈データ取引、データ権、データ要素市場の育成〉の要旨である（「原タイトル」数拠交易、数拠権利与数拠要素市場培育）（田杰棠 2020-11-26）（原書名『数字経済の路（路）』双書。田杰棠曰く、ビッグデータは、新たな生産要素であり、

デジタル経済を駆動する「石油」だ。2015年4月全国初のビッグデータ取引所たる「貴陽ビッグデータ取引所」が生まれ、武漢、ハルビン、江蘇、西安、広州、青島、上海、浙江、瀋陽、安徽、成都などに相次いで取引所が生まれた。2020

年11月現在、取引所は20を超えて各地方政府や国家信息中心と協調して、「電信数拠」、「九次方大数拠」、「数海科技」、「中潤普達」などのビッグデータサービス企業にデータを供給している。貴陽大数拠交易所の場合、一連の取引規則「《数拠确权暂行管理办法》《数拠交易结算制度》《数拠源管理办法》《数拠交易资格审核办法》《数拠交易来规范》《数拠应用管理办法》など」を設けた。2種の数拠取引モデルが行われている。1つは伝統的な商品市場に似て、「データ集市」と呼ばれる。ここでは「加工の粗いデータ」が取引されている。2つは「付加価値つきデータ」だ。「生データを加工して」需要者に提供する。大部分の取引所で後者「付加価値つきデータ」が行われている。データ取引には2つの問題がある。1つは、個人情報保護だ。2つは、ビッグデータ自体が均質でなく、価値密度が低いことだ。このため、需要・供給間の共通認識が得られず価格形成が難しい。付加価値つきデータ

は、①ユーザーに代わってデータ加工を行っているので、ユーザーは時間とコストを節約できる。②付加価値つきデータはデータの合法性を高めているので、ユーザーの法的リスクが減少する。

田杰棠曰く、データ権の難点とトラブル。ビッグデータ権の境界画定は難しい。①データ権の主体には自然人・政府・企業が含まれる。個人数拠にはプライバシー権（隱私權）がある。個人の人格権・財産権を保護しなければならない。政府数拠は、公共資源であり、公衆には知る権利・訪問権・使用权がある。商業データには企業の知財権・企業秘密・市場競争における合法的権益がある。個人データには明確な法概念があり、明確な規範体系がある。政府データも重要な権利の客体だ。これらに対して、「商業データ」は未だ厳密な法概念が成立していない。②データが生成するチェーンには、多くの参加者があり、各参加者間の境界画定は難しい。③データと伝統的なモノとは、性質が異なる。データ権とはデータの全生命周期中における異なる支配主体の持つ権利だ、権利主体はより多くの義務と責任をもつ。

データ知財のトラブルは、経済学の原則に照らして境界を画定せよ。データ知

財はプライバシー保護を前提に、これを商品化する企業が負うべきだ。もう1つの意見はプライバシー権を含めない「原始データ」に知財権を認める考え方だ。

経済学的角度から見ると、コースの定理「コースの定理 Coase theorem 資源配分は、法的権利や法的義務などに関係なく、すべての状況で同じ配分であり続けるとする定理のこと。ノーベル経済学賞を受賞した Ronald H. Coase により発見された。この定理は、取引費用が存在しない前提で成立するものであり、取引費用が存在すると、資源配分はすべての状況で同じ配分でなくなる」に従い、データのコストが高くなりすぎないことが肝要だ。ただし法学的角度から見ると、個人の財産権保護は、「社会公平の道理」に基づくべきだ。データ権の争いの核心は「コスト主義か財産権擁護か」にある。

取引規則を明確にして、データの要素市場を発展させよう。①取引されるデータの範囲を明確にして、データ資源の供給を増やす。中国は欧米の経験に学び、「合法的非個人データ」を供給源とする。「非個人データ」には「組織・モノ・事件のデータ」および個人を特定できぬ「復元不能なデータ」を含む。②取引規則の明確化には、市場主体に対して「規則に依拠した取引」を許すのがよい。③

取引監督機関がデータ市場の「秩序ある取引」を監督する。④データサービス型の新業種を育成し、データ市場を発展させる。

テンセント研究院とテンセント・クラウドが共編した「デジタル経済の道・ガソリン・車（原書名＝数字経済「路・油・車」）双書」シリーズについて、田杰棠は次のように評している。

これはデータサービスの「ハイウェイ」であり、データは「新石油」に例えることができる、産業インターネットは「コネクテッド・カー」を結び、デジタル未来社会の青写真になる。さてデジタル経済のガソリンを提供する企業を一瞥すると、〈中移洞察100003689〉は、チャイナモバイルのデータだ。〈京城都市数鏡90005209〉は、販売・配送業者のデータだから、物流データだ。こうして上海は今や世界で最も進化した〈スマート都市作り〉に邁進している。このデジタル時代の電腦社会主義は、一步一步現実の中国社会を変革し始めた。これは旧ソ連解体を反面教師として、現代の資本主義経済の根本的矛盾を止揚する新たな経済システムの誕生を告げている。

陳永偉（北京大学市場・ネットワーク経済研究センター）の「データ市場建設のいくつかの問題」「陳永偉「關於数据市場建設的幾個問題」陳永偉は北京大学市場與網絡經濟研究中心研究員、主任助理」を読んでみよう。陳教授はビッグデータの〈産権〉（広義の所有権）と〈価格〉について言う。

〈産権〉と〈価格〉をめぐる諸問題は、20世紀80年代当時の経済改革に似ている。当時、経済改革の主要目標は計画経済から市場経済に転換することであり、2つの任務があった。1つは産権制度の確立、2つは価格メカニズムの形成である。それなしには資源の有効配置が不可能であった。そこで産権改革の先行か、価格改革の先行か、それとも同時平行かをめぐって論争が行われた。ビッグデータの市場開設においても、解決すべき核心は、この2つである。データの産権には所有・使用・収益受け取りの権力が含まれる。これは法学的語彙に見えて、実は経済学的概念なのだ。これは社会的に執行する(socially enforced)権力にはかならない。他方、使用の角度から見ると、データには〈産権を明確にしにくい属性〉がある。たとえば、①データの非排他性である、ある人が一連のデータを使用する

場合、他人が同じデータを使用することを妨げない、②もっと面倒なのは、データの復制性である、〈データ取引後の再取引〉、あるいは〈第三者の使用がもたらす帰結〉を見極めなければならない。

データの価格付け問題もある。データの価値は、それから得られる情報に依存する。1メガバイトの高質データから1テラバイトの低質データより多くの情報が得られる場合がある。これは金鉱石に似て、含金量によって、黄金の産出は異なる。さらにデータの開発と利用能力にも依存する。典型例は、ケンブリッジ分析会社がFacebookのデータを分析して、その結果が選挙に影響を与えた事実だ。データの転売を経てFacebookは、もはやデータを管理できない。そこでFacebookは免責を主張したが、社会世論は代価を要求する。データの非排他性と複製性という条件のもとで、取引リスクの客観評価は難しい。これが〈統一データ市場〉経営の最大の壁である。現時点で主流の観点は、産権から突破口を開き、データの〈権・責・利〉問題を明らかにし、次いで価格形成メカニズム問題に取り組む考え方だ。しかしながら、データの産権問題は、難しい。データには、多重属性がある。一方では、財産権の範疇

に属する。他方、データは人々の活動情報でもあり、人の要素を考慮する必要がある。データの源泉と保有から見ると、一部のデータは政府採集・保有で、明確な法的基礎をもつ。他方、一部のデータは私人による採集・使用であり、関連法や制度を欠いているため、権責の画定が難しく、争いがある。データの使用から見ると、一部のデータは使用範囲が狭く、特殊性をもつ。一部のデータは使用範囲が広く、公共性をもつ。一方ではデータの異なる特徴に応じて分類し、管理する必要があるが、他方では産権中の一部の権利を先行して独立させ、関連規定を定め、類別管理を行うのがよい。たとえば土地公有制の前提のもとで、どのように土地を流通させるか、理論上は難しいが、実践的には所有権争いを棚上げして、使用権を扱えばよい。

データに関わる各種権利の中で、その価値と最も密接なのは使用権である。データの所有権を棚上げし、その使用権を明確にして、市場取引を行えばよい。いま安全計算、聯邦学習等の新技術を用いてオリジナル・データを直接得ることなしに（フェデレイテッド・ラーニング（聯邦学習））を行う方法が開発されている。これによって、データの所有権やプライ

バシー問題を暫時棚上げできる。（安全計算、聯邦学習）等の新技術は、データ取引過程の標準化にも役立つ。この文脈では市場の発展こそが第1の推進力だと見做すことができる。現在、データ取引のプラットフォームが成功しているとはいいたい。取引実績が少ないので、人々はプラットフォームを通じた取引を望まない。その壁を突破するにはどうするか。

① 政府は手中のデータを開放し、市場取引を促すべきだ。たとえば犯罪記録は公安系統にある。企業側はこの種のデータ調査のために相応の対価を払う用意がある。② ただし政府のデータ開放は多くの問題に波及する。たとえば政府データは多部門に分散しているうえ、多くの部門は開放に対するインセンティブがない。私がかつて某地方政府で調査した体験では、地方のナンバーワンの指導者が調整を買って出たが、やはりいくつかの部門はデータ提供を拒否した。③ 政府データを上場して取引を行う場合、その取引価格も問題になる。需給で調整するとしても、価格付けを行う原則が必要だ（価格設定においては、コスト補償を重要原則とすべきだ。データの収集と管理に要する人力・物力から総コストを計算し、市場の需求・使用回数等から相応の価格を

計算できよう）。政府はデータ取引によって相応の収入を得るが、データを提供する部門は相応の収益を得られるだろうか？ ④ 一部の機密データや重要情報が出たことに伴うリスクは、誰が責任を負うのか。実際には、これはとても複雑だ。データの補完性からして単一の部門だけがデータ漏洩を防ぐことは難しい。地方政府は提供できるデータリストを作成して、リスク免責条項とするのがよい。これによって重要情報の漏洩リスクを減らす。

國務院発展研究中心は、中国経済の市場経済化へのアドバイスを提起し続けてきたシンクタンクとして著名だ。陳永偉が所属する北京大学市場・ネットワーク経済研究センターは2000年2月に発足した。中国初のインターネットおよびEコマースを研究する組織だ。両者ともに電腦社会主義を導く智囊団の核心になることが期待されている。

今こそ人類人主義を！

——国際主義を超えて、エス・ペラントの内在思想を深めたい

ソ連侵攻と敗戦で生まれた残留婦人と孤児たち

大類善啓（会員）

中国が文化大革命を終え、新たな改革開放政策に舵を切った1980年代には、日中関係でも新たな現象がいろいろと現れた。その一つが思いもしなかった旧満洲からの残留日本婦人や孤児たちの姿だった。それは大きな衝撃を人々に与えた。

旧満洲で残留せざるを得なかった日本の婦人や孤児たちは、中国人にもらわれたり、買われたりした。子どもたちはその後成長し、残留婦人たちも肉親を探し求めて来日した。テレビでは親やきょうだいらとの涙の中の再会などが映し出されていた。実の母との再会などの画面を見て、涙を流した視聴者も多かっただろう。

中には、中国で築いた家族と新たな別れをして日本に引き揚げてきた人たちもいた。「お前は日本人なのだ。祖国へ帰っ

ていい」と、あたたかく送り出してくれた家もあっただろう。しかし、泣く泣く引き裂かれた家族もいて新たな悲劇も生まれたのだ。そのような中であって、中国に留まる残留日本婦人もいた。

日本に帰るだけが「幸せの道」ではない。中国に留まり現在の家族と過ごす人たちである。そのような人たちを支援することも大事なことで、紆余曲折を経ながらも1991年5月、「方正地区支援交流の会」を友人たちが立ち上げ、私もその活動の末端にいた。この活動の過程で、ハルビン市の郊外にある方正県に日本人公墓があることを初めて知った。

なぜ方正地区の残留婦人や孤児だったのか

ハルビンから東へ180kmにある方正

県には、残留婦人や孤児たちが一番多かった。支援の対象を中国東北部全体の残留者まで入れると大変だ。まず、残留婦人や孤児たちが一番多く生まれた方正地区を支援しようと会は成立し、1993年7月初めて訪中団を組織して方正を訪問した。その折りに日本人公墓を参拝した。

初めて公墓の前にして、なぜ加害者でもあった「開拓民」たちの公墓を、被害を受けた中国が建てたのか。この立場が反対だったらどうだろうかと思った。日本政府が中国人たちの墓を建てるのだろうか。私は、否、たぶん建てることはないだろうと思った。

会の事務局長として訪中団の秘書長的な役割をした牧野八郎氏が司祭として古神道式の祭式で慰霊し、10人近い参加者は公墓に参拝した。その後2011年6

月、我々の活動で公墓の存在を知った高野山真言宗の僧侶12人が真言宗の法衣を着て慰霊した。ところが今や、方正県政府は中国の「愛国青年」なる右派の声におびえて、宗教的祭式による慰霊はむしろん、公墓参拝の写真撮影も許さないのだ。それを思うと、当時はいかに寛大であったか。方正県政府は日本人公墓を訪ねる日本人たちを歓迎したのである。

なぜ方正を「ほうせい」と呼ばず「ほうまさ」と呼ぶのか。旧満洲にいた多くの日本人たちは、黒竜江省にある宝清県と区別するために、この地を「ほうせい」と呼ばずに「ほうまさ」と呼ぶようになり、私たちが旧満洲にいた人たちの思いを込めて、そのように呼んでいるのである。

敗戦後の中国農民の怒りと決死の逃避行

1945年の8月9日、ソ連軍は突如、「満洲」に侵攻した。続く8月15日、日本は敗戦した。と同時に、昨日まで隣人として、にこにこ微笑んでいた中国の農民たちは、たちまち、日本人の家屋に押し入り、日本人たちに襲いかかり家財道具を持ち出した。

「開拓民」と呼ばれる人たちが北満や東満と呼ばれるソ連との国境近くには多

くいた。しかし「開拓」といっても、本来の意味での開拓ではない。日本政府は関東軍の後ろ盾で中国の農民たちから土地を安く買いたたき、また、すでに耕作地としてあった土地を奪い、「開拓民」たちに与えたのだ。満蒙開拓が国策と言われる所以であり、いわば「開拓民」は当時の中国農民にとっては侵略の先兵であり、来たるべきソ連との軍事衝突を予想した人間の盾でもあったのだ。

日本の敗戦と同時に、土地を奪われた中国の農民たちの怒りが爆発したのである。「開拓団」にいた日本人たちはたちまち難民と化し、逃避行を続けた。

昼間はソ連軍や中国人たちの襲撃に遭うというので山に隠れてやり過ごし、夜になると歩き出し、方正を目指したのだ。「方正に行けば関東軍がいる。軍の食糧基地がある」と聞いていた人々は、方正にたどり着けばなんとか助かると思ったのだ。方正に着けば、その先にはハルビンがある。そして日本へ帰れると思ったのである。

逃亡の過程では、泣き叫ぶ幼い子どもをそのままにしておくと、怒りに燃えた中国人たちやソ連軍に見つかるといふことで団長から命令され、時に幼子を扼殺せざるを得ない母親もいた。中には、ソ

連軍の攻撃とともに婦人たちは凌辱されるだろう、どうせ殺されるなら集団自決しようと決めた開拓団もあった。その中でも有名なのが「麻山事件」と呼ばれた集団自決だった。そのような過酷な逃避行が2、3か月続き、やっと方正にたどり着いたのである。

しかし関東軍はすでにいなかった。なんとか方正の収容所に収容されたはいいが、飢餓と発疹チフスで続々と死者が出た。その数は5000人近いと言われる。その凍りついた多くの遺体は、1945年の秋から翌年の春にかけて溶け出し、異臭と悪臭を放った。このまま放置すると伝染病が蔓延するだろうと、中国東北部をいち早く支配した八路军は、ガソリンを3日3晩かけて遺体を焼いたという。そして方正の山のほうに捨てた。

ある残留婦人の訴えた願い

山形県天童市出身の松田ちよさんも残留せざるを得なかった婦人の一人だった。「中国人の嫁になるなんて絶対嫌だ」と言い張っていた松田さんも、生きていくには中国人の嫁になるしかない。そう決めて、紹介された崔さんという善良な農民の妻になった。

1963年、毛沢東の大躍進の失敗は

たいへんな被害を中国の人々にもたらした。一説には、2000万の餓死者を生み出したという。そのため、当時の中国政府は耕せる土地があるなら、食糧を自分たちで調達していいという指令を出した。

松田さんは同じ残留婦人である佐藤栄さんと話し合った。そして松田さんは耕せる土地を求めて方正の山に入って行った。そしてそこに、累々たる白骨の山を見つけたのだ。松田さんにはすぐわかった。1945年の秋から翌年の冬にかけて亡くなった同胞たちの白骨であることを。

野良犬が白骨を食い散らし、子どもたちが足蹴にしている姿を見て松田さんは、こんな状態になっている姿を日本政府は知っているのだろうかと思った。そして佐藤さんと語らい、なんとか自分たちで葬ることはできないだろうか相談し、松田さんは翌日一人、県政府を訪ね、自分たちで葬りますから許可してほしいと嘆願した。

県政府はさてどうするか考えた。「侵略者の白骨など知るものか。そのままにしておけ」と言ってもおかしくはない。しかし当時の県政府は違った。上部機関の黒竜江省政府に判断を委ねた。省政府も判断しかね、北京の中央政府に松田さんの願いが届いた。陳毅外相から総理の

周恩来までに松田さんの願いは伝えられた。周恩来は熟慮の末、「開拓民といえども日本の軍国主義の犠牲者である。丁寧に葬るように」という指令を出した。軍国主義と日本人を区別した周恩来総理の思想の拠って立つところは、いわば国際主義的精神である。方正日本人公墓は、いわば国際主義的精神の賜物なのだ。1963年、まだ国交が回復する9年前のことである。

日本人公墓の存在を知ってもらおう

「方正地区支援交流の会」は方正県にODAの予算を使って経済援助を行い、日本語学校に教材などを寄贈したりしたが、会長の石井貫一氏も亡くなり、会はやや停滞した。ちなみに石井氏は、いわゆる「満洲国」の副県長を務めたこともある人である。

会を存続させるか、それとも解散するかと、私を含めて6人ほどが討議した。その折り、今は亡き奥村正雄氏が、「ならんらかの形で会を存続させよう。そして我々年寄りは一歩引き下がり、若い人に任せよう」と言った。集まった中で私が一人、みんなより10歳ほど若く、おのずと私が責任者として会を存続させるかどうかという風になった。

私は、経済援助などできる力はないが、知られざる日本人公墓の存在をより多くの人たちに知ってもらい、公墓建立の思想的根拠である国際主義的精神を広める活動ならやってもいいと答えた。みんな賛同してくれ、2005年「方正友好交流の会」が発足し、会報「星火方正」を年に2回発行し、昨年の12月、33号を発行した。

星の光はとても小さな火だ。今は小さな野火にすぎないが、やがて燎原の火のように、方正から平和と国際主義的精神が広まるのだという思いを込めて、会報の名前にし、その由来を表紙裏に記した。

今や「国際主義」は風前の灯

ところが、この「国際主義」が今や風前の灯なのだ。

我々の会の仲間に飯白栄助さんという方がいた。両親は東京・品川区の戸越銀座で乾物商を営んでいたが、戦況が厳しくなり荷物の輸送もままならず、物は来ない。そして1944年4月、第13次興安東京開拓団として家族4人で満洲へ行くことになった。1933年生まれの飯白さんは当時11歳である。

その開拓団は敗戦で800人が逃避行し、その過程で303人が集団自決した

が、飯白さんと姉は生き残った。敗戦後、中国に残った飯白さんは解放軍に入り、朝鮮戦争にも参加した稀有の体験の持ち主である。

2010年5月、第6回方正友好交流の会総会後の講演会で飯白さんに話をしてもらった。その折りこんな話があった。

解放軍に入ったところ、飯白さんはよく中国人兵士から、日本人の蔑称である「小日本」「日本鬼子」と言われた。そう言われると飯白さんは怒り、すぐ喧嘩になった。すると幹部が飛んで来て、まず中国人兵士を叱った。その後、飯白さんに「お前も民族意識が強すぎる。日本鬼子というのは、当時の日本の侵略者の象徴だからお前が気にすることはない」と諫められ、「お前は国際主義的精神が足りない」と諭すのだった。当時は、地方の末端の共産党幹部でも国際主義的精神が横溢していたのだ。

ところが近年はどうだ。中国現代史研究家の村田忠禧氏（横浜国立大学名誉教授）が、過去にさかのぼって「人民日報」の社説に出てくる単語の頻出度を調べたところ、「国際主義」という言葉は年毎に減り、それに代わって「愛国主義」なる言葉が頻繁に表れるようになったという。その話を聞いたのは2013年ごろ

だったと思う。とりわけ江沢民が主席になって以降、大手を振って愛国主義という排他的な姿勢が目立っているのである。改めて村田さんの研究成果を見てみると、1988年の第14回党大会にいたると、党規約からも国際主義という言葉は削除されたという。

国家とは、日本とは何なのか

2013年ごろからだろうか。尖閣問題などの領土問題が浮上すると、決まって日中の政府高官から「わが国固有の領土」という言葉が頻繁に出てきたが、そもそも議論の前提になっている「日本」にしろ「中国」にしろ、いわゆる国民国家なる概念はたかだか明治維新以降に出てきたものだと言えるだろう。

それ以前の人々は、藩という觀念に支配され、薩摩だ、肥後だ、長州だと争い、競い合っていたのである。「俺は長州人だ」「わしは薩摩隼人だ」と自己規定していたのだ。「日本人」としておのれを捉えていたわけではない。もちろん日本を「国家」として認定していたわけではない。天皇にしても、江戸時代以前の庶民にとって天皇なるものは、存在さえ疑わしいほど希薄なものだったのである。歴史家である網野善彦氏によれば、

「日本」という名前が登場するのは、8世紀初頭に勢力を振るっていた一族が本州の西南部や九州の北部をめぐって領土の支配を確立した時のようである。その最高権力者が「天の王」を意味する天皇という称号を与えられたという。要するに「日本」とは、ある特定の一族によって支配された政治的な単位だったのだ。そのような事情を勘案すると、おのずと国家や日本なるものは極めて相対的な存在であり、そのようなものを前提にすることの愚かしさが見えてきはしないだろうか。

国際主義よ、去らば。今こそ人類主義を！

国際主義も畢竟、国家を前提にしているのだ。国家の成立要件として基本的に考えられるのは「国民」「領土」「主権」だろう。しかし今、国家を前提とすることが正しいのかと思うのである。その思考の限界を考える時代に来ているのではないか。

「私は日本の国民である」「私は日本人である」といったような日本Ⅱ国家を前提として考え、行動することの時代的な古さなど、現代世界を考える時、その思考の狭量さを思う時代が到来しているの

である。

ポーランド出身のユダヤ人政治思想家であるアイザック・ドイッチャーは、すでに1960年代半ばにこう語っている。

「一民族だけの国家などというものはすべて時代錯誤的存在である。どうしてこれがまだ理解されないのであろうか。原子のエネルギーが日一日と地球を矮小化し、人類は宇宙旅行をはじめ、人工衛星が「大民族国家」の上空を1、2分で飛びまわっている時代になれば、技術的な進歩は民族国家などというものをふるくさい馬鹿ばかしい存在にしてみようのはわかりきったことではないか。それはたとえるならば、蒸気機関が発明された時代に中世の封建的領主制が愚劣な時代遅れのものと化したのと同様である」

〔非ユダヤ的ユダヤ人〕鈴木一郎訳

国民国家や民族国家の一員として自己を捉えることの時代遅れ、その滑稽さを今こそ認識すべきではないだろうか。

ここに来て、エスペラントという世界共通語を創造したザメンホフの思想である人類主義に、新たな未来への光を見出したいのである。

ザメンホフの人類主義とは、エスペラントでHOMARANISMO、ホマ

ラニスモと言う。ホマローとは人類、アーノは一員、イスモは主義、「我々は人類の一員である」という考えである。

「私は日本人である」「私は中国人である」「私はアメリカ人である」といった所属する国家の一員として自己規定するのではなく、この世の大地に生きるひとりひとりの個人を出発点として、この世界を考え、人類の一員として発想し行動するのだ。

ザメンホフの言葉でいえば、次のようになる。

「すべての民族は同等の権利を有する人類の一部であると考え、私はその出生民族によってではなく、その個人の生み出す価値と行動によって人を判断します。自分とは違う民族であるとか、違った言語や宗教であるとかで人を攻撃したり、迫害することは野蛮的な行動であると考えます」(ザメンホフ著『国際語序文と全教程』、1887年、最初にエスペラント博士著として発表した、いわゆる第一書と呼ばれるもの)

アイデンティティは一つではない

毎年1月1日に開催されるウィーンのニューイヤークコンサートは、全世界にテレビ中継されるほどの新年恒例の行事に

なっている。2022年のコンサートの指揮者はダニエル・バレンボイムだった。昨年は無観客で演奏されたが、今年は観客を入れて開催された。会場にいた聴衆は一人残らずマスク姿だった。こんな光景を見るのは初めてのことである。

そしてバレンボイムは、演奏途中の挨拶の中で、コロナ感染に触れ、「人類全体の問題である」云々といった言葉を発した。

まさにコロナ感染を防御し、次なる災禍を防ぐには人類的な発想で考えなければならぬ時代に来たことを、誰もが実感したことだろう。環境問題一つを取っても世界的な視野、全地球的な発想と行動をもってしか解決できない時代であることを、実感を持って人々は理解したのではないだろうか。

まさにエスペラントの内在思想である人類主義がやっと今、世界の人々に理解される時代になったのだ。あるいは、やっと現実の世界がザメンホフの思想に近づいてきたと言っているだろう。

バレンボイムは彼の自伝の中でこんなことを書いている。

「私は21世紀が始まった今、アイデンティティは一つだと主張して人々を納得させることは誰にもできないと思う。私

たちの時代が抱える問題の一つは、人々がますます小さな、局所的なことにしか関心をもたなくなり、物事がどのように混じり合い、どのように集まって全体の一部となっているか、ほとんど認識していない場合がしばしばあるということだ。

(中略) 私はアイデンティティの問題を、音楽家として、また同時に、自分が送ってきた人生という観点から見つめている。私の祖父母はロシア系ユダヤ人で、私自身はアルゼンチンで生まれ、イスラエルで育ち、大人になってからは人生の大半をヨーロッパで過ごした。私はその時その時で、たまたま話すことになった言語で考える。またベートーヴェンを指揮する時には自分をドイツ人のように感じるし、ヴェルディを指揮する時にはイタリア人のように感じる。それでも、自分自身に不誠実だという感じはない。それどころかまったく反対である」と書いている。(『ダニエル・バレンボイム自伝』2002年イギリス、2003年、増補改訂版、葦田洋子訳)

まさにアイデンティティは一つでないのだ。自己を一つの所属先だけに規定することはない。多様な所属先があるのが実は自然なことなのだとと言えるだろう。

ザメンホフとはどういう人だったか

ルドヴィーコ・ラザーロ・ザメンホフは1859年、現在のポーランドの東部、ベラルーシとの国境に近いビャウイストクに生まれた。当時はロシア帝国の支配下にあったリトアニア領の地だった。

現在、ビャウイストクはポーランドにあることもあって、しばしばザメンホフをポーランド人として誤って報じられることがある。しかしザメンホフは両親ともにユダヤ人だった。ただ父親は、教育者で宗教にこだわらず、無神論者であったが母は熱心なユダヤ教徒だった。その両親の下、ザメンホフは長男として生まれ、その下に4人の弟、3人の妹がいた。当時のビャウイストクでは、ユダヤ人、ポーランド人、ロシア人、ドイツ人、ウクライナ人たちが暮らしていたが、その人口構成は、ユダヤ人が66%、ポーランド人が18%、ロシア人が8%、ドイツ人が6%、ウクライナ人が2%ほどだった。(田中克彦著『エスペラント 異端の言語』)

ユダヤ人が圧倒的に多かったが、東欧に根強い反ユダヤ主義の中でユダヤ人たちは差別されていた。当時のユダヤ人たちは東欧のユダヤ人の共通語とも言うべ

きイディッシュ語を話していた。その言葉は非常にドイツ語に近く、「崩れたドイツ語」と揶揄された言葉である。今でも少数だが一部のユダヤ人が使っている。そのイディッシュ語で書かれた小説に『牛乳屋テヴィエ』がある。シヨレム・アレイヘムが書いた作品だが、『屋根の上のバイオリン弾き』という有名なミュージカル作品の原作である。主人公は、ユダヤの伝統と信仰を守る牛乳屋のテヴィエだが、父親の彼に反抗するかのようにな娘たちは異教徒や革命家の青年たちと結婚し、次々と親元を離れていく物語だ。

ビャウイストクでは言葉の違いから、市場や通りで喧嘩が絶えなかったという。喧嘩になると野次馬が集まってくる。ロシア人の警官が仲裁に入るが、リトアニアの女が話す言葉がわからない。警官は「ここはロシア皇帝の領土だ。ロシア語で話せ」と怒り出すのだ。

小さい時からこのような光景を見ていたザメンホフは、「人間はみんなきょうだいだと教えられていたのに」と思い、「大きくなったら、きっとこの不幸をなくしてみせるぞ」と、絶えず独り言を繰り返すような少年だった。

言葉が通じないために争いや誤解が生じる状況を見て育ち、そこから世界共通語の夢を育んでいったのだった。

世界共通語を創ろう

ザメンホフ一家は、ビャウイストクからワルシャワに移った。成績優秀なザメンホフはその後、選ばれてモスクワ大学医学部に入学する。同級生には後に有名になった作家のチェーホフがいた。ザメンホフは、成績は良かったがユダヤ人故に家庭教師にもなれず、また学費も続かず、ワルシャワに戻るのだった。1881年のことである。

その年のクリスマスのワルシャワで、ユダヤ人へのボグロムが起こった。ロシア語で大虐殺の意味である。ザメンホフの家族は3日間、地下室に逃れ、なんとか命拾いをした。ザメンホフはこの体験をして現実を改めて厳しいと認識したのだった。しかし、人類のために世界共通語を創るという夢はどうしても捨て去ることができなかった。

周囲の状況を見渡せば、ポーランド人はロシア語を嫌い、ロシア人はドイツ語を嫌い、ドイツ人はフランスが好きになれない。フランス人は英語を受け入れようとしない現実を見ると、ますます世界

共通語の必要性を感じるのだった。

ザメンホフはラテン語も理解でき、またロシア語もポーランド語も話せたが、人類の共通語の夢は持ち続けた。そして共通語は、誰にとっても学びやすく、現にあるどの民族言語にも偏らない中立性を持つていること、発音がやさしいこと、文法は規則的で例外事項は存在しないことなどと熟慮し、苦勞に苦勞を重ねて世界共通語エスペラントを創りだしたのである。

レフ・トルストイ、ロマン・ロランも共感した

1887年、ザメンホフはついに「リングヴォ・インテルナツィーア」(国際語の意)をエスペラント博士という名前で発表した。エスペラントとは希望する人という意味で、ザメンホフはこの冊子を当時のヨーロッパで影響力のある知識人に贈った。

レフ・トルストイは感激し、「エスペラントを普及させることは地上に神の国を創ることを助けることである、これこそ人類の理想だ」という手紙をザメンホフに送った。ロマン・ロランも、「世界語は最も平和的な、最も働きのある、最も武装せずして、しかも最も効果的な、

ある革命の一つである。それは政治的な革命よりいっそう深いものである。何故ならそれは、社会の輪郭を改造するばかりでなく、人類の精神をも改造するからである。それは覚えずして新しい信仰、新しい神たる人類を運ぶ乗り物である。エスペラントは人類解放の武器である」という言葉を贈り、エスペラントを支持したのであった。

マクシム・ゴーリキーも「保守的な人々は、エスペラントを空想的な仕事だと頑強に言い張っている。しかし現実には、確実に保守的な人々の考えを覆していく」と称賛した。

そうした知識人たちの影響もあり、エスペラントは徐々に人々の中に浸透し、1905年にはドーバー海峡に臨むフランスのブローニュ・シュル・メールで第1回「世界エスペラント大会」を開くまでになり、世界各地から668人が集まった。参加した人々がお互いにエスペラントを通じて話すのを見てザメンホフは感激し、「ここでロシア人とフランス人が会ったのではない。ポーランド人とイギリス人が出会ったのではない」と言い、国籍で区別するのではなく、それぞれの固有の名前をもつ人々が出会ったことを讃えた。

そして「緑星旗下の祈り」という詩を発表した。緑の星はエスペラントを表すシンボルである。しかしこの詩の最後の部分をフランス人たちの反対で読み上げることができなかった。それは次のような詩だ。

兄弟よ、一つにまとまって手を握りなさい。平和の武器をもって前へ進みなさい！

キリスト教徒もユダヤ教徒もイスラム教徒も、私たちはみんな神の子です。

ザメンホフはこの「祈り」の最後の部分の削除を要求された時、あまりのくやしさに泣き出してしまったという。最終的に妥協してこの最後の部分を彼は読み上げなかった。

ヨーロッパというキリスト教世界の中で、ユダヤ教徒もイスラム教徒もみんな神の子だと詠ったザメンホフ。エスペラントは単なる言葉の一つに過ぎないという意見に対して、商売や実用にしか役に立たないエスペラントならば、ないほうがましだと言い切ったのもザメンホフだった。

予言者としてのザメンホフ

ザメンホフについて、私がもう一つ強調しておきたいのは、予言者としての側面である。ワルシャワでボグロムに遭うも、なんとか助かったザメンホフはここに来て、やはりユダヤ人の国を創らなければユダヤ人たちは救われないのかと思いい、イスラエルのシオンの丘に教会を建てようというシオニズム運動に積極的に参加するようになり、ワルシャワのリーダーまでになった。

しかし、運動の中に入ってザメンホフは改めて思ったのだ。このシオニズム運動によって建設されるイスラエル国家は、究極的にはパレスチナにいるアラブ系住民を排除して成立するだろう。それはユダヤ民族主義の国になるだろう。イスラエル建国は、離散するユダヤ人たちの真の解決にはならないだろうとシオニズムと決別するのだった。

まさにザメンホフの予言通り、1948年のイスラエル建国と同時に、アラブ諸国との戦争が始まり、今なおイスラエルとアラブ諸国との対立はますます深まるばかりである。私は、予言者としてのザメンホフの洞察力をもっともって評価すべきだと思う。と同時に、ザメンホフ

の言う人類主義こそ、今求められているものだと改めて思うのである。

長谷川テルを見直そう

さて、この人類主義を体現したように生きた日本のエスペランティストを挙げるとするなら、私は何といっても長谷川テル（以下、テルという）がその代表的な存在だと思う。

テルは、1912年3月、山梨県の猿橋（現、大月市）で生まれたが、一家はその後、東京に移り、東京府立第3高女に入学後、奈良女子高等師範学校、現在の奈良女子大学国文科に進学した。

1931年9月18日、柳条湖事件が勃発した。「中国軍が満鉄線を爆破した」と言って関東軍が中国を攻撃したのである。いわゆる「満洲事変」である。そして翌年、日本は「満洲国」を「建国」した。テルはこのような時代に青年時代を過ごしたのだ。同じクラスにいた中国からの留学生たちは「このような時期に日本にすることはできない」と帰国した。この学生時代にエスペラントを学んだテルは、日本プロレタリア文化連盟などに近づいたが、その連盟のメンバーたちが検挙され、テルもシンパとみなされ警察に連行され退学させられた。

そして東京に戻った彼女はエスペラントを通じて「満洲国」から留学していた劉仁と出会い、恋愛し結婚した。

その後、盧溝橋事件が起こり、日中は本格的な戦争の始まりを迎えるのだった。テルたちは日本を離れて中国に渡った。中国語ができないテルだが、日本から伝わったエスペラントを習得していた中国のエスペラントリストたちと親しく付き合った。

1937年8月には日本海軍は上海で中国軍に攻撃を加え、8月15日には日本政府は南京政府を「断固懲罰する」という声明を出し、首都南京を攻撃した。テルは日本の友人たちに次のような公開の手紙を書いた。

「お望みならば、どうぞ私を売国奴と呼んでくださっても結構です。私は、これっぽっちもおそれません。むしろ、私は他民族の国土を侵略するばかりか、なんの罪もない無力な難民の上に、この世の地獄を現出させて平然としている人びとと同じ民族のひとりであることを恥とします。ほんとうの愛国主義は、人類の進化とけっして対立するものではありません。でなければ、それは排外主義なのです」（長谷川テル著『嵐の中のささやき』）

周恩来もテルを讃えた

時代は、進歩的な言説を吐いていた日本の著名な知識人たちが時流に乗るかのように変節していた。テルたちは上海を出て漢口に向かい、そこで郭沫若やエスペラントリストの胡愈之らの計らいで国民党中央部国際宣伝処対日科に迎えられ、テルはマイクの前で日本軍の将兵たちに日本語でこう訴えた。

「日本の将兵の皆さん！ 皆さんは、この戦争は聖戦だと教え込まれ、そう信じているかもしれませんが、果たしてそうでしょうか。違います。この戦争は、大資本家と軍部の野合世帯である軍事ファシストが、自分たちの利益のために起こした侵略戦争なのです。日本にいるあなた方の家族は、おなかをすかせて、ひどく苦しんでいます」（高杉一郎著『中国の緑の星』）

テル夫妻はその後、国民党から離れて中国共産党に共感していく。テルの文章は、周恩来が指導していた『新華日報』や延安から発行されていた『解放日報』にも発表されていた。テルは日中戦争だけでなく、1936年から始まったス

ペイン戦争にも言及するほど世界的視野を持っていた。

1941年7月27日、重慶の文化人たちが集まる席で周恩来はテルに対し、「日本の帝国主義者はあなたを売国奴のアナウンサーと言っていますが、あなたは日本人民の忠実な娘であり、真の愛国者です」と褒め讃えた。

日本の敗戦後、テル夫妻は瀋陽に行き、2人目の子ども、劉曉蘭が生まれた。その後、佳木斯に向かった。この地で3人目の子どもを孕んだが流産する道を選ぶ。しかし手術は失敗し、当時の不衛生な手術器具から感染症になり命を落とした。その3か月後、身体が弱かった劉仁も後を追うように亡くなった。今2人は、佳木斯の烈士陵園に、平和のために闘った「国際主義戦士」と丁重に葬られている。第2次世界大戦を経て77年、強権的な独裁者が相次いで出現し、狭隘な民族主義や「愛国主義」なるものが跋扈する現代世界を考える時、ザメンホフの人類人主義を今一度我々の中に甦らせたいものと思うのは私だけではないと思う。

人権侵害・憲法違反の入管

渡邊澄子（会員）

史実を歪める「神話」の正体を暴く「歴史探偵」として「近現代史の語り部」半藤一利さんが亡くなったのは昨年の一・月一二日だが、彼が声を潤らして最後まで訴え続けたのは戦争を再び招かぬためのうそのない正しい歴史を学ぶことの重要性だった。この国のとりわけ為政者たちの歴史不勉強さには怒りを禁じ得ない。学ぼうともしていかないようだ。半藤さんは権力を縛る現行憲法には近現代史の教訓が集約されていると、前文の「日本が生きていくための理想が描かれ、条文は理想を実現するための手段」を挙げ、評価している。

既に堂々となされている憲法違反の事例は枚挙に遑ないほどである。アトラン

ダムにほんの幾つか挙げるならば、まず税金の使い方である。日本の安全保障に関する国家安全保障戦略（NSS）の改訂がある。防衛力の着実な整備や日米同盟の強化がはかられているが、ひたすら増額の莫大な防衛費、本土の盾とされた酷烈無惨な沖縄戦への反省もなく米軍基地の島にしてしまっている。完成見込みのない辺野古基地、思いやり予算、卑劣な「アメとムチ」対策その他沖縄県民の命と生活に優先させた米国隷属の地位協定によって日本国民である沖縄県民への無体な施策は言うも愚かだ。現憲法の基本のひとつである「学問の自由」を踏みにじった日本學術会議会員の任命拒否問題は、今に至るも理由を説明せず議論することすら拒んでいる許しがたいことの

ひとつだ。政権に反対・批判する研究者に制裁を加え、学界を政権政策のコントロール下におき、政権にとって「役に立つ」存在に変えたいという思惑が透けている。コロナ禍下での唐突な一斉休校、GOTO事業の強行、緊急事態宣言下での五輪開催、アベノマスク、ワクチン接種の混乱等々責任の所在が曖昧なまま、国民の健康と生活が危険にさらされたり等々と数えたらればキリもない。

憲法違反の重大例の一つに入管問題がある。闇から闇に葬られていた問題が可視化されて社会問題から政治問題になっている今ホットな問題にウイシユマさん事件がある。入管問題を真っ正面から取り上げて話題となった中島京子の『やさしい猫』も視野にいれながら、人権問題

として入管問題を考えてみたい。

陳玉璽事件

二〇二一年一月発行の個人誌『河正雄コレクション 資料集』第二号に依頼を受けて「川田泰代という女性」を書いた。川田泰代という人は全然知らなかったが、彼女がアムネスティ・インターナショナル（以下A Iと略記）日本支部設立の中心の一人と知って興味を覚え、急ぎ資料を集めて書いた。A I国際委員会日本支部は、当時は中国人とされていた台湾人の陳玉璽が日本から入管によって強制送還され、台湾国府下の軍事法廷で死刑の判決を受けた事件で巻き起こった。そこで陳玉璽事件について述べる事にする。

台湾彰化県の中農の家に生まれた（1939年1月2日）陳玉璽は、優秀な成績によって台湾では最高レベルの台湾大学に親類縁者の支援で進んだが、抜群の成績から奨学生としてハワイ大学の東西文化センターに留学して修士の学位（数理経済学）を取得した。能力を見込まれてハワイ大学経済学部助手を務めた

が、アメリカにおける経済学では屈指といわれるブラウン大学の博士課程への奨学生試験に合格した。ブラウン大学入学のために、ブラウン大学博士課程への交換留学生であることを証明した身分証明書と、学費給付のアメリカ合衆国国務省からの証明書を添付した留学継続申請に対して、国府（台湾国民政府）はこの申請を却下しただけでなく即刻の帰国を命じてきたのだった。陳は驚愕した。当時、中華民国政府の支配下にあった国府の過酷な弾圧を知る友人たちから、もしベトナム戦争反対デモに出たことが理由ならば帰国は入獄に直結する、命も危ない、とりあえず日本に行く事を勧められた。ベトナム反戦デモにたまたま参加して手を挙げていた姿を写真に撮られて、それが台湾で放映されたことを台湾の友人から知らされていたので恐くなり、一九六七年八月一七日、観光ビザで日本にきたのだった。パスポートの有効期限は六八年八月までだったが一月一五日まで期間更新されていた。東西文化センターと関係の深い法政大学教授（間もなく総長）中村哲を頼ったのだろうが、中村哲教授、経済学部学部長松岡磐木教授の許で学ぶ事を強く望み、中村・松岡両教授も大学院博士課程への入学を歓迎し

て、陳の後ろ盾になってくれた。日本入国後、親中派の紹介で寄宿したのが川田泰代の家だった。九月中旬から一月初旬までの約二か月間を川田宅で過ごし、その後は、「中国ならびに近隣諸国との相互理解を深め、友好親善・交流を推進」する国際善隣協会が拠点とする新橋の善隣開館三階に当時あった後楽寮起居の場とした。

一面識もない陳の世話をする事になったいきさつについて川田の語るところによると、川田の父が孫文を畏敬していた関係からだろうが、一九六六年に開催された「孫文先生生誕百周年記念会」の事務局長（局長は名目だけで実際は事務、と川田）を勤めた縁によるだろうと述べている。ついでに言わでものことながら、吉永小百合は姉の娘、姪であって、彼女が芸能界に入ったきっかけは川田が勤めていた『婦人画報』の子ども服のモデルに使ったことによる。エスベラントリストで反戦主義者として中国で抗日放送を行った長谷川テル（本名照子、筆名緑川英子）は遠縁に当たるといふ。川田泰代は陳玉璽を短期間世話した縁から陳の救援運動に挺身することになり、さらに平和運動家として「良心の囚人」救

済運動の活動をするようになっていた。

陳玉璽が入所した後楽寮について『善隣』読者には無用かもしれないが簡単に述べておきたい。戦前・満州国留学生のための学生寮を運営していた財団法人満州国留日学生補導協会が、敗戦による終戦によって事業遂行が不可能となって解散した後を国際善隣協会の「財団法人善隣学生会館」が引き継いで設立したのは一九五三年五月二三日で、六二年四月に後楽寮を開設、第一期生二七名が入所。

陳の後楽寮入所はこの時期で、台湾人は中国の支配下だったことから中国人とされていたことによるだろう。学生会館の新会館建設は一九八四年に開始され、八五年三月、文京区後楽一―五―三に、中国人留学生寮（後楽寮）および日中学院からなる別館が完成し、八八年一月に事務局、日中友好会館美術館・大ホール・ホテル（後楽賓館）・貸室などからなる本館が完成した。現在は中国人留学生寮「後楽寮」は二〇四室あり、各室はビジネスホテルのシングル程度のスペースに冷暖房、インターネット端子を備えた個室となっていて、食堂には中国から派遣された調理師によって中国の家庭料理を提供しているという。なお、後楽賓館の

二、三階には研究員用の宿舎があり、三〇人前後の研究者・学者が期間二年として滞在できる。陳が宿舎としたのは新橋の現・善隣会館の三階にあったらしい後楽寮のようである。

陳玉璽は法政大学大学院入学が決まっていた留資格取得のために、一九六八年一月八日に、東京入館事務所に特別に留許可申請をした。宮崎滔天の長男の宮崎竜介弁護士が身元引受人になった証書、中村哲・松岡磐木教授が陳の大学受け入れを証明した文書を入管当局の要請に従って提出していた。一月一日、入管からの呼出しに応じた審査一課の面接を経て、入管当局の指示による「特在」のための身元保証金一万円を収めて仮放免が決定されたので、あとは外国人在留許可証を貰うだけと安心して、入学の準備をしていたのだった。

入管から二月八日午後一時の出頭の連絡に、在留許可証交付と思い込んで何も持たずに定刻に指定された審査二課に行ったところ、いきなり入管の警備官に囲まれて「退去強制令書」と「收容令書」へのサインを命じられたのだった。驚愕した陳は規定に従って手続きに來ただけだったのだからと拒否すると、四人

による殴る踏む蹴るの暴力を振るわれて力づくで手錠をかけられた。普段は温厚な陳だが、この時は恐怖と、連行されたら大変の思いから、入管建物全館に響くほどの大声で必死に抵抗したという。後でわかったことだが、即時強制送還となった人でも、私物の荷物を取りに行ったり、世話になった人たちへの挨拶や、必要な人への電話などの要求のできる権利があったのに、陳は逃亡の恐れありと判断されて、権利のあることすら知らされず、横浜市三溪園の山上にある收容所に移され、翌九日は早朝にたたき起こされて、手錠のまま着いたのは羽田空港だった。強制送還を必至と感じた陳は肌身離さず持っていた日記と鍵を宮崎竜介先生に渡して欲しいと預けたが、宮崎には渡っていない。午前九時半のCAL機（蔣介石の息子が経営）には迎えの台湾の役人が乗っていた。入管職員が保証金の一〇万円を渡そうとしたが、陳は法政大学大学院に入学するつもりなので受け取らなかったと言うが、その一〇万円はどこに消えたのか、後楽寮に置かれたままの私物の行方もわからぬままである。

入管に出向いたまま帰らぬ陳の身を案じた中国人の友人が翌九日に入管に出向いて尋ねると、陳は自分の意志で自分の金

で帰国したと言われ、そんなはずはないと不審に思ったと述べている。陳玉璽はハワイ大学から日本經由台北までの航空チケットを貰っていたが、それは後楽寮に置いたままなので自費はあり得ない。

入管に出かけたまま行方不明になった陳を案じた友人たちは帰国したのならそのうち連絡があるだろうと待ったが、音沙汰がないことで川田に相談したのだろう。川田が驚いて陳の父に陳の所在を確かめたところ、日本にいるはずとの返事。入管に出向いたまま帰らぬことを知った父があの手この手で探した結果、台北の台湾警備総司令部に収監されて連日連夜、凄まじい尋問と拷問にあっている事を知ったのだった。この時着ていた血染めのセーターが残されている。発見されて死を免れたものの尋問と拷問の酷烈さと逮捕の不当さへの抗議から、房の壁に頭を打ちつけて自殺を図ったのだった。

陳玉璽が政治犯にでっち上げられて台湾の軍事検察官から死刑を求刑されていた事を知る。このころの台湾政府は、小林多喜二の拷問、虐殺に象徴される日本の戦前・戦中に猛威を振るった治安維持法よりも凄絶な徴治反乱条例違反求刑者を数多く出していった。陳の死刑判決を

知ったハワイ大学の学生・教員たちによる陳玉璽救済運動が火を噴き炎となっていた。川田泰代の必死の運動で日本でも運動が盛り上がったらしいが、戦後二三年も経った人権平等の憲法下でこんな酷い事が起きていたなどは、私は全然知らなかった。

陳玉璽が拉致同様に逮捕されて、身元保証人はじめ誰にも知らされず強制送還されてしまった約ひと月後の三月二十六日に柳文卿事件が起きている。台湾独立運動に参加していた柳文卿がオーバーステイになっていたために、陳事件など全く知らずに理由説明に入管に出頭したところ、従来なら許容されたのにいきなり退去命令で身柄を拘束され、翌二七日の午前九時半離陸のCAL機で強制送還されることになったのだった。その情報をいち早くキャッチした台湾独立派（台湾青年独立連盟）の活動家たちが駆けつけて、柳の送還を阻止しようとして羽田空港の滑走路に入って一〇名が逮捕されるという、いわゆる羽田事件が起き、柳の抵抗する姿や台湾独立派青年が拘束される様子が写真入りで新聞報道されたことで、政治犯の強制送還が広く人々の耳目を集める事になったが、柳は送還されて

しまう。

逮捕を逃れた許世楷（後、津田塾大学教授、台北駐日経済文化代表処代表）が弁護士で社会党議員だった猪俣浩三に相談して、この事件の不当性を猪俣が国会で質問してくれる事になった。猪俣浩三は、戦前に人民戦線事件、ゾルゲ事件、戦後には鹿地事件（キャンソーン機関拉致事件）などや、政治犯引き渡しに関わる尹秀吉退去取消訴訟などに携わった人権弁護士として知られていた。猪俣は政治的立場は親中派だったが、うけがって事件直後の一九六八年三月から四月にかけて七回の質問を行っている。このことを知ったのだろうか、支援を求めた日中友好協会の陳が台湾人だったことで腰の重かったことから、川田は猪俣浩三に救いを求めたのだった。猪俣は、柳文卿事件に引き続いて四月一九日から三回、国会の法務委員会で陳事件について鋭く執拗に追求していて、この両事件での国会質問を通して露呈したのは日台間に交わされた密約だった。

政治犯引き渡しの日台間の「密約」は、一九六七年一〇月三日から佐藤栄作政権下の法務大臣田中伊三次と中川進入管局長が訪台したなかで結ばれたものだった。このころ、台湾人の麻薬密輸業

者が二一八人、大村収容所に長期収容されていた彼らを台湾に引き取って貰う交換条件として政治犯を提供するということだった。麻葉犯三〇人に政治犯一人という取り決めで、その犠牲者として最初に血祭りに上げられたのが陳玉璽で犠牲者第二号が柳文卿だったのだ。

政治犯に仕立てあげられた陳の逮捕理由を、はじめはハワイ大学留学中にベトナム反戦デモに参加したためとされていたが、この程度では逮捕理由には弱すぎると判断されたのだろう。一九六八年六月一八日付けの軍事檢察官および書記官署名の「本部軍事法廷 御中」とした被告陳玉璽の「台湾警備総司令部軍事檢察官 起訴状」の「犯罪事実」には、アメリカ滞在中に中共の『中国画報』『人民日報』、毛沢東の『詩詞』など読んで左翼化した。アメリカ滞在の申請が不許可となつて日本に來ると、「華僑總會」の副会長に大陸行きを頼み、中共から返事を貰うために中共系の『大地報』に「愛華」のペンネームで中共宣伝の文章を書いて「非合法の方法で政府を転覆しようとした」「犯罪意図」を持ち、「実行者たる段階に至つてい」て、反乱徴治罰条令の第二条第一項の罪状は明らかである、とある。よくもこんな作文が作れたものと

呆れるが、すべて事実無根の捏造である。アメリカ滞在不許可もブラウン大学大学院博士課程への入学が決まつていて、その証明書を貰つていたのだから真つ赤なうそだが、「愛華」などのペンネームも使つたことはないという。いきなり強制送還された二月八日までは在留許可の方向に進んでいたのに、この急展開は二月七日に密約による指令が届いていたからで、二月八日には駐日大使館から台北の外交部に対して、「日本側と話がまとまり、陳を台湾へ送り出す。九日九時半に中国航空機に搭乗」と「秘急特」で連絡されていたのだった。

陳玉璽がそれまでの入管とのやりとりから、在留許可証はすぐに受け取つて帰れると思ひ込んで出かけてそのまま行方知れずになったことを真つ先に報じたのはウイクリー紙『東京オブザーバー』（一九六八年四月二十八日）の中島照男記者で、日本政府の出入国管理令違反の不当性を暴露した三面にわたつた報道は陳救援運動の起爆となつた。さらに『朝日ジャーナル』がとりあげ、APニュースの「台湾青年が日本から『蒸発』 本国で死刑判決」、東京12チャンネルの「蒸発した陳さん」の一時放映もされたが、

なぜか反響は大きくなかった。川田は駅売りの『東京オブザーバー』を駅を回つて何十部も買つて、ハワイ大学はじめあちこちに送り届けている。

陳の死刑判決を知つたハワイでの救援運動は機敏だった。「陳玉璽を守る会」が結成されて学生大会が開かれ、ハワイ選出下院議員のバッシィ・竹島・ミンク氏に協力を求めるなど素早かった。日本の救援運動は六八年八月一日から三日にかけて京都の国際会議場で開催された「反戦と変革に関する国際会議」でのベ平連による「台湾青年の強制送還」発言からだろう。川田は中村哲法政大で学総長にハワイ大学留学生担当教授宛打電を依頼したが、陳の父親からも陳救援依頼がハワイ大学に届けられた。ハワイ大学全学を挙げての学生集会が開かれ、運動はハワイ大学から燎原の火の如く広がつていった。

「国府」が外国の動きに敏感なことを察知した運動家によつて、外国で国府批判の声を上げる事に効果のあることを知つたことで、アメリカ、日本での救援活動の拡大がはかられた。外電が六月一八日付けで起訴された陳玉璽に死刑が求刑されたと報じた三日後の六月二四日、

宮崎竜介（弁護士）、中村哲（法政大学総長）、高木建夫（評論家）、松岡磐木（法政大学教授、陳の指導教授の予定だった）、中村敦夫（俳優）による日本での「陳玉璽君を守る会」が結成された。拡大化された運動によって秘密裁判だった第一回公判（1968年8月1日）を公開にさせたが、一人の証人も呼ばれなかった三時間のいい加減さだった。起訴理由に、陳が法政大学入学準備中に読んだとされる本が挙げられたが、その真偽の証明はなく、仮に百歩譲って事実だとしても、ベトナム反戦集会にちよつと出て、国府が嫌う本を読んだという理由で死刑とは恐れ入る。

犯罪理由は陳自身の自白によるので有力証拠とされたが、自殺に追いやられたほどの凄まじい拷問のなかでデッチ上げられたものだとも陳はあくまでも烈しく自白を否認した。八月一〇日の判決にはA Iアメリカ支部による世界世論への訴えが効果を上げた。国際社会世論の圧力に屈した台湾軍事法廷は、陳玉璽の死刑の変更を余儀なくされ、被告が滞日中に中国共産党系の華僑新聞『大地報』に協力したこと（全くの虚偽）を罪状にした動乱教唆罪で、禁固七年の刑の言い渡しとなった。死刑が七年への減刑は異例中の

異例で大成功と言えるが、陳玉璽に七年も服役しなければならぬ罪科などはないのだから無罪釈放を勝ち取らねばならぬと、ハワイ大学の教授や学生から市民へと、日本でも運動の裾野は広がっていた。とは言え、まだ「見える化」される社会状況ではなかった。

時系列無視になるが、陳玉璽の保釈勝ち取りに力を発揮したA I国際委員会について述べておきたい。既に柳文卿と陳玉璽事件に関して国会で弾劾的質問をしていた猪俣浩三が一九六九年九月にフランスの議会の紹介で日本の衆議院議員代表として各地に出かけた時、ワシントンの飛行場でエール大学の教授（陳隆志。台湾出身の著名な国際法学者）と中国人に迎えられて驚いたが、彼らに案内されてワシントンのA Iの事務所に行き、そこでいろいろ説明を受け、パンフレットなども貰ったが、このとき日本支部設立を要望されたのだった。また、ハワイで迎えてくれたハワイ大学の学生たちにハワイ大学出身の陳玉璽救済の活動をハワイ大学総長に要望してほしいと頼まれ、猪俣は総長に要望して快諾された。この大学には日本人が三〇名ほど留学していたが彼らと会食して陳救援について話し

あった。猪俣がハワイを発ったその日の夕方、領事館では初めての事だが、日本領事館に学生六〇名ほどがデモをかけたことを知ったという。この旅で猪俣は日本での支部設立の決意を固めたと述べている。

A I日本支部設立の動きが陳・柳事件によって活発化し、猪俣浩三、川田泰代、宗像隆幸の呼びかけで、一九七〇年四月二三日に正式に日本支部が発足した。

A I日本支部は台湾政治犯の釈放・軽減運動に道を開いたばかりでなく、政治犯引き渡しをはじめ、人権擁護全般にわたる問題に関わる運動の嚆矢となった。法務省と入管は、強制送還決定後に裁判による介入で執行停止命令を受ける事を回避するために出入国管理法の「改正」を一九六九年にしようとしたが、猪俣浩三らの反対で断念している。この断念には、一九六九年四月二〇日、奈良県立医科大学学生で自治会活動のリーダーだった在日華僑の李智成が「満腔の怒りをもって佐藤政府の『出入国管理法』『外国人学生法案』に対して死をもって抗議する!」という遺書を残して生命を絶つ事件が起き、在日外国人青年たちに悲しみと怒りを燃え上がらせたことが反映して

いると思われる。李智成（イ・ジソン）の死は陳玉璽事件への怒りとなり、その怒りの炎は在日中国人青年たちの陳玉璽救済運動へと広がった。六九年三月二日、新橋の善隣会館で発会した「二法案粉砕国際青年共闘会議」は、青年、学生、労働者たちに在日アジア人留学生を含む大組織に膨れ上がらせた。この熱塊は全学連、各大学全共闘、ベ平連等々日本の闘う人々、さらに反戦欧米人をも結集した大規模な運動になった。七一年二月八日、入管体制粉砕東京実行委員会主催による、陳玉璽強制送還三周年に際しての「六八年二・八陳玉璽君強制送還弾劾全都総決起集会」が法政大学で開催され、三月には『法政評論』臨時増刊号（1971年4月1日）で陳玉璽事件総特集が刊行された。ハワイでは大学は勿論「ハワイ市民連合」による陳玉璽釈放運動がひろく展開されるなど広範な運動になっていき、台湾当局は七一年一〇月二五日、陳玉璽の七年の刑期満了を待たず、三年八か月で、「恩赦」という口実で釈放せざるを得なくなった。結果して闘った民衆の力が勝ったのだ。

それにしても、平和・人権憲法公布から二十一年も経っていたのに、これほどの人権抑圧、人権侵害がまかり通っていた

とは驚きだが、この事件以後も入管の憲法違反の人権侵害・人権抑圧は続いていたことを顕在化したのがウイシュマさん事件だった。

ウイシュマさん事件

近年は入管に関した本がいろいろ刊行されているがその一つの平野雄吾著『ルポ入管——絶望の外国人収容施設』（ちくま新書、2020年10月）がコンパクトにまとめてくれている。「夫、あるいは父の死」「入管収容施設の実態」「親子分離の実相、強制送還の恐怖」「在留資格を求める闘い」「国家権力と外国人」の五章から成り、カバールの帯の「密室で繰り上げられる暴行、監禁、医療放置、巨大化する国家組織の知られざる実態」の語句がこの本の内容を端的に示している。ウイシュマさん事件は入管の実態を示すサンプルとも言えるだろう。この事件は今なお継続中のホットなニュースとして周知されている事件だが、論の展開上、略述しておきたい。

スリランカ女性のウイシュマ・サンダマリさん（死亡時三三歳。一九八八年生まれか）が二人の妹と母を残して来日し

たのは二〇一七年六月だった。大学卒業後教職についていたが、早くに父を亡くした事で苦勞をかけた母を楽にさせたいと思いとスリランカで語学校を開設したい夢を抱いて、安全で人々も優しい国と憧れていたの来日だった。留学費用は家を担保に母が借金して用意してくれた。目的達成の初段階として日本語学校で学んでいたが、遠く故国を離れた寂しさからか、スリランカ人男性と親しみ同居するようになっていて、その男性からDVや金銭奪取を受けるようになって、学校は学費未納で除籍処分され、在留資格を失ってしまった。オーバーステイになった彼女は交番に助けを求めて相談に行ったところ、名古屋入管に送られてしまう。このような例は多く、警察と入管の密着のおぞましさを顕示する。入管で国外退去処分を言い渡されるがコロナ禍によって定期便は就航せず、臨時便は高額のために利用できず、男性の妨害もあって入管収容となったのだった。二〇二〇年八月二〇日のことである。

所内の劣悪な環境・食事から体調不良が急速に進行した。再三の医師の診断要求も許可されず、やっと受けられて、入院・点滴が必要と言われたのに、入管は

「詐病」として取り合わず記録に残してもいない。水すら吐くようになり、尿検査は異常数値だったが放置され、仮放免請求も不許可とされ、瀕死状態になった三月四日に受けた外部の病院では、すぐに仮放免にして入院治療すれば治るがこのままなら死ぬだろうと診断されていた。それにもかかわらず放置され、記載されてもいない。この時救急搬送されていれば助かっただろう。翌五日、仮放免検討の面接がされたが既に意識がなく、入館職員が目の前で手を振っても全く反応がなかった。その後救急搬送されることもなく、六日朝、職員の呼びかけに無反応で、血圧、脈拍は測定不可能状態だったがまだ救急搬送の要請はされず、午後三時過ぎにやっと搬送要請が出されたが、もはや間に合わなかった。入管では三年四年、八年の例もある長期収容が問題視されていた中で、ウイシュマさんの死は、入所からたった六か月半後である。

ウイシュマさんの死の知らせに驚いて来日した妹のワヨミさんとポールニマさんは姉の遺体に対面して絶句。号泣した。あんなに愛していた国にきて、こんなになるまで放置されていたなんて、こ

んな死に方をするなんて。アメリカ人だったらこんな死に方はしないだろう、スリランカは貧しい小さい国だからこんな扱われ方をしたのだろうか、と嘆き怒りに身もだえした。死亡時の体重は入所から半年間なのに二〇キロ減だった。

死因不明とされたことに納得せず、遺族は死因の解明を求め、監視カメラの開示を求めた。映像は死に至る二週間分だけでも二九五時間あったが、編集した二時間だけが開示された。だがそこには、人間扱いされぬ残酷な対応に急速に弱っていき、断末魔の声をあげる姉の姿が映し出されていて、ショックに耐えきれなかった。ワヨミさんは帰国したが、ポールニマさんは映像の全面開示、真相の解明を求めて日本に残った。闘う覚悟を表明した彼女は入管法廃案運動にも参加している。

ところで、ポールニマさんの言ったアメリカ人だったらこんな扱われ方はしなかっただろう、は事実のようだ。沖縄における思いやり予算や地位協定における日本政府の対アメリカ姿勢に、それは見られる。陳玉璽事件にも言えるが、人は生まれる国や親を選べない。だからこそ、人権は平等でなければならない。陳

の生国台湾の歴史は「台湾に生まれた悲哀」という言葉があるが複雑だ。長く清の統治下にあったが、一八九五年から一九四五年までは日本統治下にあったのだ。日本は台湾に対して侵略国だった。

日本の敗戦は台湾の人たちを自由にはしなかった。南京国民政府（一九四五～一九四八年）、中華民国政府の統治下（一九四九～一九九六年）におかれることになった。陳玉璽が中国人扱いされた所以である。その後、独立運動の活発化で二〇〇八年以後の世論は、中華人民共和国とは分離して蔡英文総統のもとで独立国との認識に立つようになる。台湾在住の歌人小佐野弾は「台湾では多数の市民と政府の間に信頼関係が築かれてい」て、「在住外国人の多くも、政府の発信する情報を信頼している」、女性の蔡英文総統の率いるこの国はアジアで初めて同性婚を合法化し、外国人も全員健康保険に加入できて高質の医療サービスを受けられると、台湾の民主主義の礎を築いた李登輝総統（李登輝の総統時代は一九九〇～二〇〇〇年）の功績を偲びつつ書いている（『朝日新聞』二〇二〇年十一月十一日）が、「台湾有事」という言葉・文字が目につく昨今である。「台湾有事」とは中国が台湾を武力統一しようとして台湾を

支援する米国との間で戦争が起るといふことのような。もし、そのような事態が惹起したら日本も安泰ではいられない。憲法を「改正」（改正の実態は改悪）し、自衛隊を軍隊として位置づけることを「実現」とするという岸田政権は「台湾有事」を想定しているのかもしれない。二二年二月一六日の衆院予算委員会で岸防衛相が、敵基地攻撃能力をめぐり、自衛隊機が他国領空に入って軍事拠点を爆撃し、ミサイル発射を阻止する手段を持つことを「排除しない」と明言した。安全保障関連法の成立で集団的自衛権の行使が可能となるのだ。そのような事態を想像するのは耐えがたい。

台湾は日本の九州より少し小さい国だが軍事上重要な地位にある。日本の統治下にあったアジア太平洋戦争では軍夫・軍属を含めて約二〇万人の台湾人が日本軍に動員され三万人が戦死したという。「台湾に生まれた悲哀」と看過してはならないだろう。岸防衛相は「台湾有事」が起こったら「安保法制の適用を検討している」と答弁している。安保法制は戦争法だ。怖い。

台湾について述べたついでにスリラン

カについてもごく簡単に述べておきたい。スリランカはインド洋に浮かぶ「宝石のような、光り輝く島」と言われる。紅茶生産の盛んな、北海道の面積の八割の地に人口二一六七万人という小さな国で、スリランカ語というのはなくしてシンハラ語が公用語だ。セイロンと呼ばれていた（あ、「セイロン紅茶」）イギリス領だった太平洋戦争下ではイギリス海軍東洋艦隊の拠点であったため、日本軍の空爆で民間人に被害を与えたという。知らなかった。一九四八年二月四日、イギリスからセイロンとして独立、一九七二年にイギリス連邦共和国スリランカ共和国と改称、一九七八年からスリランカとして独立しているが辛い曲折をたどっている。二〇一一年の東日本大震災に際しては、八〇〇〇万円の義援金と三〇〇〇万個の紅茶ティーバッグの援助を日本は受けている。イギリスから独立した（一九四八年）四年後に日本とセイロンは国交を樹立した。サンフランシスコ講和条約に出席したセイロン代表のジャヤワルデネ大統領の仏陀の言葉を引用した「人は愛によってのみ憎しみを越えられる。憎しみでは、憎しみを越えられない」は人々に感銘を与えた。日本に対しては対日賠償請求権を放棄し、日本の国際社

会復帰の道筋を作ってくれた恩義ある国で、「おしん」人気から日本に憧れる人が多いという。二〇一八年の数字だが、在スリランカ日本人は七六七人、在日スリランカ人は二五〇七四人、在日スリランカ留学生は八三二九人という。イギリスから独立後、二六年間続いた反政府武装勢力と政府軍との紛争が終結した二〇〇九年以後、南アジア有数の経済成長国となり、世界遺産八つを持つ観光立国でもある。民度は高いが気候変動による干ばつ、洪水などの災害が農業中心のこの国にとって深刻な問題になっているという。『やさしい猫』に頻出するスリランカカレーと練乳入りの超甘いミルクティーがスリランカカラーらしい。入管職員は収容者の国の歴史を学ぶべきだろう。

入管問題はその国の人権保障のバロメーターであると言われているが、不条理が日常化されているようだ。ウイシュマさんの収容から死までの経過を知りたいという遺族の強い要求を受けた支援弁護士の情報公開請求に、名古屋入管が開示した文書は一五一三頁に及ぶ分厚さだったが、タイトル以外、隠蔽する必要もない開示された部分映像で明らかに

なっている事まですべてが黒塗りだった（請求文書は一枚一〇円のコピー代がとられることを初めて知った。役立たずの黒塗り文書に約一六万円かったという）。菅政権が終盤国会の焦点の一つとしていた入管難民改正法（2021年）

は断念を余儀なくされ、再上程（2022年）でも見送りとされたのは、ウイシュマさん事件が可視化されてからのようだ。陳玉璽事件は国際的な弾劾・反対運動が起きていたにもかかわらず日本国内のメディアの反応は鈍く、世論形成には至らなかった。ウイシュマさん事件では、妹ポールニマさんの屈しない闘う姿勢に寄り添って、人権問題として取り組み、粘り強く記事にし続けている望月衣塑子記者の活動があり、時あたかも赤木ファイル事件の封じこめを「認諾」という税金一億円超ではかった政府の手に、逆に闘争心を高めた赤木雅子さん。さらに、勤務会社の倒産で餓首され、職探しに奔走していたためのオーバーステイになって入管収容されたスリランカ人の男性と結婚していたシングルマザーの日本人女性とその娘が、入管と闘ってスリランカ男性を取り戻す話を描いた中島京子の『やさしい猫』。この四人の女性によって、ウイシュマさん事件は世間に

可視化されたと見る事ができるだろう。陳玉璽事件にはこのような強力な、かつ魅力的な援護者はいなかったことで可視化に至らなかったといえるかもしれない。今や女性力力は力なのだ。

おわりに

ウイシュマさん事件は未だ解決にはほど遠い現在進行形だが、可視化されたことでメディアに注目され、入管行政批判の声が高まった。難民不認定の取り消しを求める訴訟を起こす前に強制送還されたのは憲法違反と提訴したスリランカ人男性二人に国側敗訴の判決が下って、国側は上告断念という入管庁敗訴（2021年9月）の事例が生まれている。

だが、入管の体質は依然として変わっていない。何度も上程される法案には外国人敵視姿勢が見られる。日本は難民認定に先進国中群を抜いて厳しいだけでなく、人手不足を補うために技能実習生を大量に迎え入れながら、賃金未払いや、酷使労働で彼らの命や人権を踏みにじる事例が多い。耐えきれず逃げ出した人、実習先の都合で契約打ち切りになった人、来日のために抱えた多額の借金未返済で帰るに帰れない人、国情不安定で帰

国は命の危険である人などの事情に関係なく、強制送還や長期収容する日本の入管政策は、国連の人権機関から繰り返し厳しい勧告がなされているにもかかわらず、改められていない。入管職員には病気を「詐病」と決めつけ、愛し合って結婚したのに、滞日のための「偽装結婚」と決めつける例が多いようだ。戦前・戦中の熾烈を極めた悪法の治安維持法の行使者である特高関係者で、戦後に公職追放を免れた者が入管の仕事に携わっていることで、かつての体質を引きずっているという指摘もある。劣悪な扱いと巨大な権限を持つ入管の不透明性を、一九九七年以後の死者二人が証明するだろう。

近年のウクライナ問題は台湾にも波及しかねず、今なお蔓延中の新型コロナウイルス問題も含めて世界に不安な要素が漂っているが、日本も敵基地攻撃改称に首相が言及するなど、憲法に基づく専守防衛逸脱が懸念されるだけでなく、民主主義に翳りがみられる事例も多く、危機感を抱かされる昨今である。

陶々俳壇

陶陶句会
結果
2021年7月

兼題 「雪の下」「」 馬場由紀子選

花山葵蝶に化けたる僧の列 松島二三四

○由紀子 「花山葵」は初夏の季語。「蝶」は春の季語。
「見他季の季重なりのように見えるが、この
場合の「蝶」は実態のない蝶であって僧の化
身である。また夏の季語と共に使用すること
で夏蝶とも考えられる。この季重なりは玄人
の使い方。幻想的で宗教的なものを内蔵させ
ているような句。

夕顔や捨てかねている文の束
○明良 夕顔は咲いては枯れる日々ですが。
夕顔は夕方大きな白い花が咲き翌朝しぼんで
しまふ。恋人が知らねど来た手紙の束を大事
に取っていて、時々開けてなつかしんでいる
風情かな。
ラブレターでしょうか。

○正子 「夕顔」ときてからの「文」なら、実らぬ恋
の文の束かもしれない。

○由紀子 伊勢神宮へは二見浦海岸で禊をして参拝する
夏至祭があるといわれる。朝湯は禊のつくり
なのであろうか。
うん、こつこつ生活、素敵！

○紅杓 卒寿越え辿り着きたり半夏生
○正堂 まだまだ頑張ってください。
○善一 半夏生（七月二日頃）今年も半夏生を迎える
ことができた。九十歳という卒寿を越えおめ

○正堂 棺に向けホルン高らか山開 大内善一
棺に向ってホルンが鳴る山開きの景がわかる。
棺ヶ岳は氷河の浸食を受け頂上部は棺の鋭い
尖峰（ホルン）を呈し、山開きには神事とア
ルプスホルン演奏が行われるという。
○由紀子 山男・山女がうすずとしてこの時を待って
いるのがピンピンと伝わっている。
○三四 一読して大きな印象があったのですが、よ
く冷えた西瓜を大事にしている白磁の皿に乗
せてもなす友人は、久しぶりに会うとても
大切な関係で、作者はこの日を心待ちにし
ていたのだ、と思ひたりしました。西瓜を食べ
終わったあとも会話はいつまでも続いたこと
でしょう。

友来る白磁の皿に冷西瓜

○三四 一読して大きな印象があったのですが、よ
く冷えた西瓜を大事にしている白磁の皿に乗
せてもなす友人は、久しぶりに会うとても
大切な関係で、作者はこの日を心待ちにし
ていたのだ、と思ひたりしました。西瓜を食べ
終わったあとも会話はいつまでも続いたこと
でしょう。

○紅杓 磁器ならではなめらかな質感とどっしりと
した重量感のある白磁の皿は、暑い夏に甘味
とシャリ感のある西瓜の盛り付けを際立たせ
てくれるが装飾や造形抜きで器が放つ色だけ
で目を愉しませてくれる。

○正子 空気中の水蒸気がクモの糸に触れ糸状の水滴
になり糸状のコブに小さな水滴が集まり綺麗
で大きな水滴模様を作る。クモの糸が水に触
れると水滴になる性質などクモの糸の特徴を
持つた物性の報告はなく「夢の繊維」である
らしい。
たしかに、雨露に濡れると蜘蛛の巣ははつき
り姿を現します。絹の名にふさわしく美しく
しい。

雨露が華麗に暴く蜘蛛の繭 日野正子

○紅杓

○三四 木槿咲き真つ新な夏始まりぬ
○由紀子 清なる木槿の花びらを「真つ新な夏」の始
まりとした感性の豊かさと鋭さに驚きと賞賛。

木槿咲き真つ新な夏始まりぬ

○正堂

ゆつたりと素足で家中歩むかな 佐藤若杉

○三四 しほく歩けない事情があったのでしょうか。
季節は夏、素足で畳や床の感触を確かめなが
ら、見慣れたはずの家の中をゆつくりと歩く
—という景を想像しました。

○善一 靴をぬいで素足となり、たたみの感触を染し
みながら家の中を歩いている。たたみの新し
い香りを染しみなながら。

○由紀子 夏の生活の一端が垣間見える静かな句。「ゆ
つたりと真昼の床を踏む素足」としても。

炎天で汗も出ぬほど年取りぬ

○由紀子 老いを的確に表現されている。「炎天や汗も
出ぬほど歳をとり」としたい。

うぐひすの谷渡りや庭木立 橋本紅杓

○由紀子 「谷渡り」ときて「庭木立」。このアンバラ
ンが面白い。「鶯の谷渡りとも庭木立」とり
ズムを整えた。

ゆふがほの香りに囲まるるベンチかな

○正堂

・由紀子 「ゆふがほの香に包まるるベンチかな」

梅雨明けを待ちつつトマトほぼりて 上野 京

○正子 トマトを丸ごとほぼりて幸せ感が伝わります。

猫好きの息子嫁なり可愛けり

○明良 動物好きに悪い人はいません。

夕顔や微熱の震へひた隠し 馬場由紀子

○明良 夕顔の色と溶け込んでいます。
○三四 何による微熱？ 想像が膨らむ。

をさならの夢断たぬやう蚊帳の外

○三四 上五は「幼な等」だと気付いた。小さい子ど
もたちが蚊帳の中で寝息を立てている。寝相
の悪い子もいよう。どんな夢を見ているのだ
ろう。夢から覚めてしまわないよう、作者は
そつと布団を離れ、蚊帳の外に出て、縁側あ
たりに座るのである。

○正子



習俗ゆえの犯罪

11月22日、インフルエンサーの女性が山東省済寧市汶上県で自身の自殺をネット中継して死亡した事件後、彼女の遺骨をめぐる「冥婚」（死後婚）事件のニュースが注目されている。すでに汶上県の火葬場の従業員が彼女の遺骨を盗み、葬儀社の男と運転手が買い手を探して遺骨を運んだことが明らかになった。5万元から7万元の報酬をもらう予定だったという。容疑者は捕まり、遺骨は湖南省の実家に戻り埋葬された。

お金になるがゆえに、「冥婚」にはすでに産業チェーンができあがっている。上流は墓泥棒や葬儀社の内部の者、中流は仲介と輸送を担当する者、下流は買い手である。上海大学文学院中文学部の教授で、中国民俗学会常務理事の黄景春氏は長年「冥婚」の研究をしている。何度禁じてもこの風習がなくならないのは、中国古代からの民間信仰と関係がある。未婚のまま亡くなりあの世でも1人のままでいると、あの世の家族だけでなく、子々孫々に悪い影響があると信じる人が多い。それで身内が未婚で亡くなると、同じ年頃の死者と一緒に埋葬するのだ。これが遺体や遺骨の売買、さらに悪劣な場合は殺人などの犯罪行為に発展してしまう。

冥婚のための犯罪行為は一つ一つ撲滅すべきだが、習俗自体を禁止してしまうと、さらに地下に潜ってしまう、根絶は難しくなると黄教授。しかし、習俗がある限り公安などは予防的な措置を講じにくい。黄教授は、

禁止はできなくても、世論により導くことはできる、単に愚かだ、迷信だと言って嘲笑しても解決できないと指摘する

〔中国新聞週刊〕2021年第45期 12月16日

若者のゴールドブーム

黄金を買うようになって大人になったと感じるというネット上の書き込みがある。ある20歳になったばかりの若者は、以前はガラスや銀製のアクセサリばかり買い、金は年配者のものと思っていたが、最近魅力がわかるようになったと言う。2000年生まれの晴子さんもその1人。これまで3百グラムの金の装飾品を購入した。金1グラム450元として、13万5千円の価値だ。以前は母親が買ってくれたが、就職後は自分へのご褒美として買うそう。

これをインターネット世代ならではの財テク意識の覚醒だと捉える人もいる。

大学3年生の李丹妮さんは大

た。希少ブランドのバッグや腕時計、スニーカーを転売して儲けたのだ。昨年からファンダムを始め、一時は他の副業をやめて夢中になったが、昨年後半から値下がりが続ぎ、かなりの損を出した。そこで注目したのは金だ。「価格の変動も小さく、価値の保全性も高い」と李さん。学生寮の友人にも勧めた。彼らは皆、お金があればあるだけ使う「月光族」だから小さなチップでも買い続ければ貯金にもなる。皆それぞれの机の上にチップを入れるガラス瓶を置いて毎月1粒ずつ入れるのだそう。

李蓓さんは11月11日の独身の日セールで1グラム3百元以下の特価で買った金を実店舗で換金して3日で1万元稼いだ。加工費を節約するために、直接加工職人に加工を頼むこともあるそう。

〔中国新聞週刊〕2021年第22期 2021年12月5日

エレベータの老朽化と事故

この数年のエレベータによる負傷死亡事故件数は少くない。

多くがエレベータの老朽化に起因する。河南省鄭州市荏城小区で73歳の老婦人がエレベータのドアに挟まれ亡くなった。設置して15年のエレベータで、この2年間何度も故障し修理されていたという。

1990年代中期多くのエレベータ付きの建物が建設された。業界では15年がエレベータの使用限界だというのが、法律上には明確な規定はない。2001年の北京市の条例に基本的に使用年限を15年とするという文言が盛り込まれたただけだ。

本年5月に開催された中国エレベータ協会情報委員会の年会で、設置後15年以上経過したエレベータは全国で70万台、20年以上のものは30万台という数字が報告された。古いエレベータに定年はないのだろうか。2016年2月に国家標準委員会はエレベータの主要部品13項目の廃棄技術基準を明確に規定し、廃棄を使用年数ではなく部品の年代によって決めることを初めて打ち出したものの、これは推

奨であり強制ではない。

時限爆弾のような老朽化エレベータの更新作業の難しさと複雑さは想像以上だ。資金問題もある。1つの部品の交換に20万円かかる。1戸あたり数千円から1万元以上の負担となる。これを集めるのは実際難しい。

またエレベータの更新は品質検査部門、安全監督部門、市政部門、住宅部門など多くの部門にかかわるため、部門間の役割分担を調整の上、強制安全検査や資金計画策定にあたるのは時間と量力を要する仕事である。

更新できぬなら、修理しながら使うしかない。監督管理部門からの要請により半月、四半期、半年、1年に1度、または抜き打ちの検査が行われるため、理論上はすべてのエレベータに身体検査報告が存在するはずだが、実際はエレベータの数が多すぎで、保守整備会社の中にはおぼろげな点検、整備をするところもあり、結果的に安全性の欠陥が放置されている。

内蒙古自治区フフホト市のあ

るエレベータ設置会社の責任者喬建氏はエレベータは故障するもので、極端な事例を除けば、事故は利用者の安全知識の欠陥から起こるとの見解を示す。河南省特殊設備安全検査研究院洛陽分院総工程師弁公室の王磊主任は「エレベータが墜落することはまずない」と述べた上で、エレベータのドア付近に長くいないこと、故障しても慌てず、安定を待って緊急通報すること、緊急時と衝撃緩和姿勢をとるよう指南している。

『澎湃新聞』2021年11月20日ほか
『中新ネット』『工人日報』など

就職難の背景に大学の教育姿勢

教育部、人力資源と社会保障部の会議で、2022年度の大卒卒業生は1076万と予想され、今年度よりも167万人も増えることが示された。注目すべきは2011〜19年に至るまでの増加が174万人だったこととの対比だ。

教育部は通知を出し、大学卒

業生の就職情勢は複雑で厳しいものがあると明確に指摘、キャンパスで月間求人活動を展開すると同時に、大学指導部の業務査定に就職状況を加えること、卒業生の就職追跡調査を実施し、大学評価の重要な評価基準とするよう指示した。

21世紀教育研究院熊丙奇院長は、就職の先延ばしは結局供給過剰を露呈させるだけだと指摘。例えば大学院に進めば就職を2、3年遅らせることができるが、その行為により教育資源が薄められ、教育の質が落ち、学歴の価値が下がり、学歴のコスト高騰に結び付く。

多くの人が大学卒業生が増えすぎたのは人材育成の質が落ちたからだと思っている。現在の大学院受験ブーム、公務員試験ブーム、教師資格ブームなどの背景には、一部の大学の教育の、質ではなく証書売り物にした学校運営の結果、学生の競争力が高められてはいないことがあると熊院長は指摘している。

『中国新聞週刊』2021年11月27日

力助会通信

◆第9回理事会の議題 (3月16日開催)

今月は「まん延防止等重点措置」が発令中なので、ZOOMによる初めてのリモート理事会となった。主な内容は次の通りである。

- 確認事項
1月19日開催の第8回理事会の議事録(案)が確認された。
- 決議事項
1、令和4年度事業計画(案)：審議の結果、修正箇所が数点指摘され、次回の理事会で最終案を報告することとなった。
2、令和4年度予算(案)：第11回定時社員総会の報告事項とすることを決議した。

● 報告事項
1、昨年12月に発生し、26名が焼死した「大阪ビル火災」を受けて、この国際善隣会館の「緊急防火対策」の執行部案を報告し、活発な審議ののち原案通り推進することを決めた。主な内容は①パッケージ型自動消火設

備の設置、②機械式泡消火器の増設、③避難用救助袋の設置等である。

2、常任委員会報告(定例報告)
※2月16日の理事会および広報委員会が休会となったため、「善隣」4月号は休刊となりました。
(事務局長 藤沼弘一)

会員だより

◎ 訃報

佐藤善二氏(96歳)
令和4年2月14日逝去
謹んで哀悼の意を表します

同好会だより

＜一石会(囲碁)＞
対面での例会はコロナ感染拡大の状況を見ながら開催いたします。

＜俳句会＞

対面での俳句会はコロナ感染拡大の状況を見ながら、通信と並行して開催いたします。

＜謡曲会＞

松木千俊先生のお稽古は一人ずつの個人指導です。ご興味のある方は、事務局までご連絡ください。

みんなの写真館

山間を縫う一条の道? (表紙)

中国・寧夏回族自治区の山間を縫う一条の道、ではなくてこれは河。なかば干上がっている。

水にとぼしい土地。そそり立つ両岸にも低い草以外に生氣がほとんど見当たらない、大陸の奥地…。

1月30日、国家統計局発表の『居民収入省別一覽2021年』によれば、1位上海市の1人平均78027元に対して、20位の当地は27904元。この差を大きいと見るか、小さいと見るか。
(田畑光永)

1990年9月8日(表4上)

中朝国境の鴨緑江に架かる丹東(旧安東)大鉄橋は中朝物流の大動脈で、対岸は北朝鮮の新義州、業務のついでに辺境の河中間線を遊覧船で北朝鮮の新義州を望んだ。

朝鮮戦争当時の鉄橋は、中間の橋桁が米軍機の爆撃で崩落していました。(新宅久夫)

1998年8月8日(表4下)

日本国際貿易促進協会が組織する、吉林省琿春地区投資視察団の一員として参加した際、琿春市郊外の長嶺子口岸(関所)の中ソ国境を見学した。付近にはノモンハン事変の前哨戦となった張鼓峰がありました。

国連(UNDP)の図們江地域開発プロジェクトに、中国が主体的に動き日本や韓国の技術力と資金力を生かし、琿春市郊外「図們江デルタ地帯が将来の香港・シンガポールになり中継貿易と関連産業の発達した地域に可能性がある」として脚光を浴びたが、国際情勢の変化などによって、計画が頓挫したかに思われたが、最近中国が主導で再び動き出したと聞きます。

(新宅久夫)

2022年5月の行事予定

10日（火） 16：00 謡曲会（松木先生お稽古）

11日（水） 13：00 俳句会

兼題「莓、福」及び当季雑詠から5句を投句（4月末までに）

19日（木） 14：00 公開 第3回オンライン講演会（Zoom方式で実施）

「2つの50年『沖縄の施政権返還と日中国交正常化』」

泉川友樹氏（沖縄大学地域研究所特別研究員）

25日（水） 14：30 第11回定時社員総会

26日（木） 14：00 公開 第4回オンライン講演会（Zoom方式で実施）

「建築における大陸から日本への移転：英国の場合も比較しつつ」

モリス・マーティン氏（千葉大学名誉教授）

30日（月） 14：00 公開 【善隣古海塾】（Zoom方式で実施）

塾長：古海建一氏（当会最高顧問）

5月の会議予定

10日（火） 13：00 国際交流委員会

18日（水） 15：30 広報委員会

12日（木） 13：00 講演委員(zoom)

25日（水） 13：30 理事会(第2回)

17日（火） 13：00 環境委員会

※下線は通常日程に変更あり。

みんなの 写真館

中朝国境丹東の鴨緑江より北朝鮮を望む



中ソ国境の吉林省渾春市長嶺子関所



INTERNATIONAL GOOD NEIGHBORHOOD ASSOCIATION (IGNA)

<https://www.kokusaizenrin.com>

ISSN038610345
二〇二三年（令和四年）五月一日・毎月一日発行

「善隣」第五二四号（通巻七九一）

発行所

〒一〇五〇〇〇四 東京都港区新橋一五五
一般社団法人 国際善隣協会
電話 〇三三三三三三〇五（代表）